

岩手大学から世界に繋ぐ環境保全

環境報告書 2025



国立大学法人
岩手大学
IWATE UNIVERSITY



◇ 表紙について

表紙のアートの作成意図は、「現代の環境問題は未来への大切な分岐点である。皆はどちらの未来を選ぶか?」を意図したものです。

作成は長岡造形大学の鈴木愛さんをお願いして描いていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

岩手大学環境マネジメント学生委員会

◇ 対象組織

岩手大学上田キャンパス（人文社会科学部・教育学部・理工学部・農学部・獣医学部（令和7年度新設のため本報告書による報告はありません））、加賀野キャンパス（附属幼稚園・附属小学校・附属中学校）、東安庭キャンパス（附属特別支援学校）、御明神演習林、御明神牧場、滝沢農場、滝沢演習林、釜石キャンパス。また、本学と異なる組織体ですが、環境マネジメントシステムの適用範囲（上田キャンパス）に放送大学岩手大学学習センター及び岩手大学生生活協同組合も含まれます。

◇ 概要

*運営組織・教育研究組織等の詳しい大学情報は『[令和7年度版岩手大学概要](#)』をご確認ください。

◇ 対象期間

2024年4月1日～2025年3月31日

◇ 報告対象分野

環境的側面及び社会的側面

◇ 環境報告等に関する基準又はガイドライン等

この報告書は、「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」に準拠し、環境省の「[環境報告ガイドライン2012年版](#)」を参考にしています。

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030のアジェンダ」にて掲載された2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。（出典：[外務省HP](#)）

本報告書でもそれぞれの内容に合わせて、SDGsのラベリングを行っています。



モリーちゃん

岩手大学環境マネジメント学生委員会 シンボルキャラクター

本報告書において、学生委員会が関係している活動にはSDGsのラベリングと併せてアイコン表示しています。

目 次

contents

学長メッセージ	1	5 地域における環境コミュニケーション	
1 環境方針		2024年度トピックス	21
岩手大学環境方針		環境関連の外部委員会などへの参画	22
岩手大学ビジョン2030		環境問題に関する研究会など	
2 岩手大学の環境マネジメント		地域課題解決プログラム	23
環境目標及び活動計画の達成状況	2	環境関連分野に取り組む卒業生の活躍紹介	24
3 環境負荷低減への取組		6 学生の環境活動	
総エネルギー投入量	5	環境マネジメント学生委員会の取組	25
水資源投入量	6	学生サークルの環境活動	27
総物質投入量		『学内カンパニー』活動と環境活動カンパニー紹介	28
温室効果ガスの排出量		7 環境に関する規制について	
化学物質排出量及び管理状況	7	岩手大学に関わる環境法規制	29
グリーン購入の状況		環境リスクマネジメント	
総排水量	8	毒物・劇物の管理	30
廃棄物など総排出量		8 構内事業者の取組	
有害物質などの漏出	9	岩手大学生協同組合の環境への取組	31
生物多様性の保全		9 環境マネジメントシステムの見直し	
学外事業者への環境配慮依頼	10	環境マネジメントシステム見直し記録	32
マテリアルバランス	11	10 環境報告書第三者意見	
環境会計に関する情報	12	ステークホルダーによる環境報告書の評価	33
環境保全効果・環境保全対策に伴う経済効果	13	『環境報告書2024』第三者意見への対応	34
4 環境教育・研究		11 2025年度活動計画	
2024年度トピックス	14	2025年度岩手大学環境目標及び活動計画	35
学部・学科の環境教育	15	環境報告ガイドラインとの対照表	37
環境科目代表教員インタビュー	16	編集後記	
学部・研究科の環境研究	17		
環境研究紹介インタビュー	18		
附属学校の環境教育活動	19		



国立大学法人 岩手大学長

小川 智

岩手大学は、地球環境の保全・再生が21世紀の最重要課題の1つであると認識し、環境意識の高い人材の育成をはじめ、環境保全・再生に向けた教育・研究を積極的に推進し、SDGs（持続可能な開発目標）を踏まえ、持続可能な社会の実現に貢献します。そしてその活動は基本理念、基本方針に基づき、専門的な運営を行う5つのワーキンググループと最高環境責任者である学長直轄の環境マネジメント学生委員会により推進しています。これは小職が2011（平成23）年に理事・副学長として環境マネジメントを担当して以来、現在に至る14年の歩みの中で、様々な取組の試行錯誤を重ねた結果と言えます。

本学における環境マネジメントは、2005（平成17）年に施行された「環境配慮促進法」に端を発し、翌年の2006（平成18）年1月に「岩手大学環境方針」を制定し、「環境元年」としてスタートしました。およそ5年後の2010（平成22）年11月には国際規格ISO14001の認証登録に至り、岩手大学の環境配慮活動の礎ができました。その後、多様な生き物や生息環境を守り、その恵みを将来にわたって利用する重要性を認識し2013（平成25）年3月、「生物多様性の保全」を環境方針に書き加えました。そして2016（平成28）年9月、岩手大学の環境マネジメントシステムは2期6年にわたるISO14001の認証を返上し、2017（平成29）年12月エコアクション21の認証へと移行しました。現在は、2期6年の「ISO14001」と2期4年の「エコアクション21」の認証経験を活かし、岩手大学独自の環境マネジメントの道を歩んでいます。また、2019（平成31）年3月には、2015（平成27）年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際目標に対応し、環境方針の基本理念に「SDGs（持続可能な開発目標）」の文言を書き加えました。

日本政府は2020（令和2）年10月に、2050年までに日本の温室効果ガス排出量を全体としてゼロ、すなわち「カーボンニュートラル」にすることを旨と表明しました。2022（令和4）年4月には官邸にGX（グリーントランスフォーメーション）実行会議が設置され、内閣官房の「グリーンエネルギー戦略」に関する有識者会議と共に、経済産業省が中心となり、関係省庁と連携して「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を策定しました。さらに2025（令和7）年の閣議決定により、第7次エネルギー基本計画、GX2040ビジョン、そして地球温暖化対策計画という三つの重要な政策枠組みが連携し、日本の産業競争力強化と経済成長を同時に実現する「(GX) グリーントランスフォーメーション」の政策がスタートしました。岩手大学でも、これまでの環境マネジメントに関わる活動に加え、脱炭素経営へ向けての取組として、「岩手大学温室効果ガス削減実行計画」を立案・検討・承認し、実行に移しています。今後とも皆様のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

1 環境方針

岩手大学環境方針

岩手大学は、環境マネジメントシステムを実施する上での基本的な方針を定めています。

[岩手大学環境方針](#)

岩手大学ビジョン2030

2021年7月、岩手大学は2030年を見据え、目指すべき方向性を示す『[岩手大学ビジョン2030](#)』を制定しました。

2 岩手大学の環境マネジメント

環境目標及び活動計画の達成状況



●2024年度岩手大学環境目的、目標及び活動計画【環境目標達成状況・活動計画達成状況結果】

環境目標／活動計画 達成状況： GOOD! 達成 Ooh.. 未達成

環境方針等	I. キャンパス環境の改善	環境目標／活動計画 達成結果
環境目的	サステナブルキャンパスの構築を図る。	
環境目標	分かり易い環境マネジメントシステムの運用を図る。	GOOD!
活動計画	1. 持続可能な内部監査体制の構築を検討する。	GOOD!

環境方針等	II. エネルギーの使用	環境目標／活動計画 達成結果
EA21要求事項	二酸化炭素排出量の削減	
環境目的	エネルギー使用の削減を図る。	
環境目標	エネルギー別に再生可能エネルギーへの転換について検討する。	GOOD!
活動計画	1. A重油から転換可能な再生可能エネルギーを検討する。	GOOD!

環境目的	CO ₂ 排出量を2030年度に2013年度比約50%の削減を図る。	
環境目標	策定した実行計画 ¹⁾ を基に実施体制を検討する。	GOOD!
活動計画	1. 環境活動WGの再編を検討する。	GOOD!
	2. キャンパスカーボンニュートラルに向けた取組みについて検討する。	GOOD!
	3. 脱炭素への取組課題を共有する地方公共団体や地域企業と、情報交換や連携を図る。	GOOD!

1) 岩手大学がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の削減等のため実行すべき措置について定める計画
文部科学省が実施する2022年度地球温暖化防止対策調査時にひな形添付

環境方針等	III. 資源の使用	環境目標／活動計画 達成結果
EA21要求事項	水使用量の削減	
環境目的	資源使用の削減を図る。	
環境目標	雨水利用について検討する。	GOOD!
活動計画	1. 修景・親水用水としての利用を検討する。	GOOD!

環境方針等	IV. グリーン購入	環境目標／活動計画 達成結果
環境目的	環境会計からの環境活動評価を検討する。	
環境目標	環境保全コストの見える化を図る。	GOOD!
活動計画	1. 環境保全コストの現状及び変化について明らかにする。	GOOD!

環境方針等	V. 廃棄物等の排出	環境目標／活動計画 達成結果
EA21要求事項	廃棄物排出量の削減	
環境目的	廃棄物排出量の削減を図る。	
環境目標	リサイクルの推進に向けた取組みを行う。	GOOD!
活動計画	1. リサイクリエーションを周知し、回収を図る。	GOOD!

2 岩手大学の環境マネジメント



環境目標／活動計画 達成状況： GOOD! 達成 Ohh.. 未達成

環境方針等	Ⅵ. 環境教育 環境人材教育	環境目標／活動計画 達成結果
EA21要求事項	環境に関する教育（環境人材の育成）	
環境目的	大学における環境教育・環境人材育成を推進する。	
環境目標	効果的な環境人材育成プログラムの再構築を図る。	GOOD!
活動計画	1. 令和7年度以降の環境人材育成プログラム体制を確立する。	GOOD!
環境目的	大学における環境教育・環境人材育成を推進する。	
環境目標	学部生への効果的な環境教育を実施する。	GOOD!
活動計画	1. 学部2年生に関する環境教育受講周知と研修計画について検討する。	GOOD!
	2. 新入生に環境人材育成プログラムの周知を行う。	GOOD!
環境目的	附属学校における環境学習の充実・発展を図る。	
環境目標	附属幼稚園では、花や野菜の栽培等を通して、植物が育つ環境について関心をもつ活動を行う。	GOOD!
活動計画	1. 花の栽培や野菜作りで水やりや草取りなどの世話をする。それらを通して、自然の美しさ、豊かさ、不思議さなどに気づいたり、成長する様子に関心をもったり、命の大切さを感じたり、収穫の喜びを味わったりする。	GOOD!
環境目的	附属学校における環境学習の充実・発展を図る。	
環境目標	附属小学校では、「総合的な学習の時間」等を活用し、自然観察や地球温暖化の学習など環境について学ぶ場を創る。また、委員会やたてわり活動を通して、環境に配慮した活動を行う。	GOOD!
活動計画	1. ボランティア委員会等の活動として、学校周辺や地域の落ち葉拾い、冬季の除雪作業などを行う。	GOOD!
環境目的	附属学校における環境学習の充実・発展を図る。	
環境目標	附属中学校では、環境を守りはぐくむ心と感受性を育て、環境美化活動、エネルギーの節約等に配慮した生活・行動を実践できるよう指導する。	GOOD!
活動計画	1. 生徒会活動による校地及びその周辺の清掃・環境美化活動を行う。	GOOD!
	2. ボランティア委員会による附属幼稚園等の清掃・環境美化活動を行う。	GOOD!
環境目的	附属学校における環境学習の充実・発展を図る。	
環境目標	附属特別支援学校では、作業学習等で使用する原材料のリサイクル化を推進するとともに、委員会活動や生徒会活動における資源回収を通して環境活動を実施する。	GOOD!
活動計画	1. 空き缶、古新聞等の「資源回収」は全校に呼びかけ、中学部の委員会活動で取り組む。	GOOD!
	2. 高等部環境整備委員会では、ペットボトルキャップの回収作業、校内及び敷地内の学校環境整備に目を向けた活動に取り組む。具体的には、節電等のポスター制作、落ち葉掃き、草取り等を予定している。	GOOD!
環境目的	学生の自主的な環境保全活動を推進する。	
環境目標	EMS学生委員会では環境活動を積極的に実施する。	GOOD!
活動計画	1. 環境活動の取組状況を委員会内で共有できるシステムを構築する。	GOOD!



環境目標／活動計画 達成状況： GOOD! 達成 Ooh.. 未達成

環境方針等	VII. 環境関連研究	環境目標／活動計画 達成結果
EA21要求事項	研究及び地域や社会への還元	

環境目的	大学・大学院における環境関連研究を推進する。	
環境目標	環境関連研究の見える化を図る。	
活動計画	1. 環境関連研究の情報発信を進めるための方法について検討する。	

環境目的	大学・大学院における環境関連研究を推進する。	
環境目標	各学部・研究科の特色を活かした環境関連研究を推進する。	
活動計画	1. 人文社会科学部としての総合科学的な環境関連研究を推進する。	
	2. 教員養成学部として、学校現場などの教育実践への活用や地域ニーズに応える環境関連研究を推進する。	
	3. ソフトパス理工学の理念に基づき、ソフトパス理工学総合研究センター及び学部・研究科における持続可能な社会づくりに向けた理工学分野の環境関連研究を推進する。	
	4. 農学部として農林漁業の発展に資す環境関連研究を推進する。	

環境方針等	VIII. 構内事業者の取組	環境目標／活動計画 達成結果
環境目的	構内事業者の環境配慮活動の推進を図る。	
環境目標	放送大学岩手学習センターにおいて環境に配慮した取組を実施する。	
活動計画	1. 放送大学学生に環境保全活動の啓発を推進する。	

環境目的	構内事業者の環境配慮活動の推進を図る。	
環境目標	プラスチックごみの削減に努める。	
活動計画	1. 弁当リ・リパック容器の回収リサイクル率向上のための新しい取り組みを検討する。	

環境目的	構内事業者の環境配慮活動の推進を図る。	
環境目標	食品残渣のリサイクルを検討する。	
活動計画	1. 調理加工済みの食品残渣リサイクルに向けた方法を検討する。	

環境方針等	IX. 地域社会に対する取組	環境目標／活動計画 達成結果
EA21要求事項	社会貢献	

環境目的	三陸沿岸地域の環境産業の振興を図る。	
環境目標	持続可能な漁業に向けた取組を行う。	
活動計画	1. 地域でのイベント等で機会があれば、本キャンパスでの研究や調査などで得られた知見を活かし、講演や発表、展示等を行う。	

環境方針等	X. 法規制順守	環境目標／活動計画 達成結果
環境目的	環境に関わる法規制を遵守する。	
環境目標	法規制に関わる製品の購入・使用・廃棄時には法規制遵守評価シートによる確認を行う。	
活動計画	1. ボイラー、フロン類使用製品の購入・使用・廃棄時には法規制遵守評価シートによる確認を行う。	

3 環境負荷低減への取組

総エネルギー投入量 ●光熱量等の削減の推進



取組

- ①電気・A重油・灯油・ガソリン・軽油・都市ガス・LPGの7エネルギーの毎月の使用量を環境マネジメント推進室会議において前年度同時期及び前月との比較を行い報告した。電気使用量については、部局ユニット別にも算出した。
- ②空調機の清掃を行うとともに冷暖房時の室温管理を行った。
- ③照明器具の清掃・交換等、適正管理を行った。
- ④教室・事務室等の照明は昼休み、残業時等不必要なものを消灯する。(窓口業務を除く)

成果

2024年度のエネルギー使用量は、A重油・軽油・LPGで増加したが電気・灯油・都市ガスは使用量が前年度より減少したこともあり、総エネルギー排出量は、前年度よりも2.7%減の160,478GJとなった。

●年度別エネルギー投入量 — 2024年度目標値 (数値)

* 過去5年の推移

●総エネルギー投入量 (熱量換算)

前年比 **-2.7%** ↓



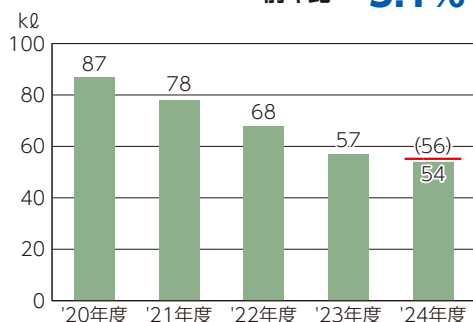
●電気

前年比 **-4.4%** ↓



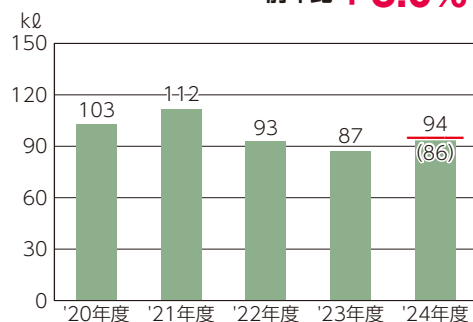
●灯油

前年比 **-5.1%** ↓



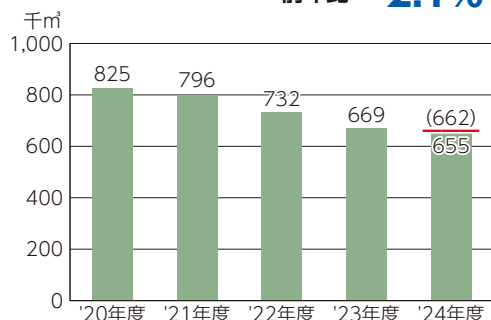
●A重油

前年比 **+8.0%** ↑



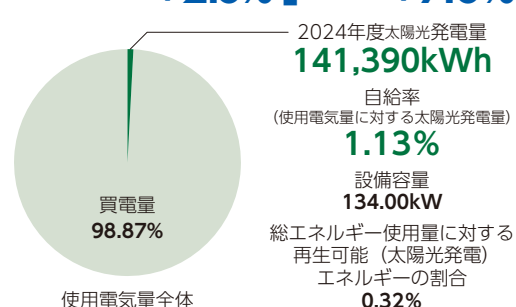
●都市ガス

前年比 **-2.1%** ↓



●再生可能エネルギー (太陽光発電)

前年比 発電量 **+2.6%** ↑ 自給率 **+7.6%** ↑



全熱量の99%を占める4エネルギー【電気 (74%)、都市ガス (19%)、A重油 (3%)、灯油 (2%)】の使用量をグラフ化。

水資源投入量 ●水道使用量の削減の推進

取組

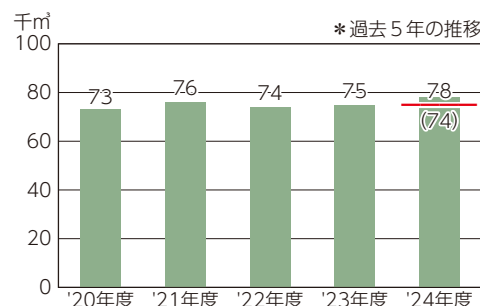
- ①毎月の水道使用量をユニット別に算出し、前年度と比較した。
- ②部局ユニット別に前年度に設定したベースラインとの比較を行った。
- ③修景・親水用水としての雨水の利用を検討した。

成果

2024年度は78,172m³と前年度よりも約4%の増加となった。
また、構内2か所の親水用の利用検討を行った。利用のためには改修が必要であることから、施設の大規模改修の際に計画することが望ましいと結論付けた。

●年度別水道使用量

前年比 **+4.0%** ↑



総物質投入量 ●紙使用量の削減の推進

取組

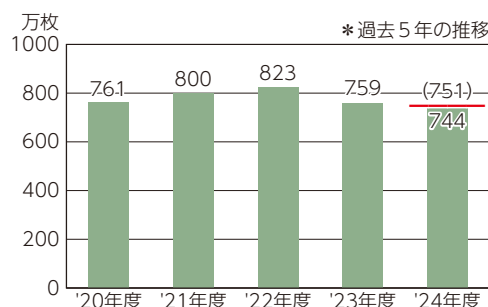
- ①印刷機の省資源機能（中とじ印刷・Nアップ等）を積極的に活用する。
- ②学内LAN、ペースベータ等の利用による文書の電子化を進める。
- ③ICT機器等の利用により会議のペーパーレス化を積極的に実施する。
- ④各会議の資料をグループウェア（ガルーン）上に掲載する。

成果

滝沢農場で82%の削減、御明神牧場では前年度の倍の使用量となった。全体では、使用量744万枚（A4換算）と前年度よりも2%の削減となった。

●年度別再生紙等使用実績

前年比 **-2.0%** ↓



温室効果ガスの排出量 ●CO₂排出量削減の推進

取組

- ①毎月の電気・A重油・灯油・ガソリン・軽油・都市ガス・LPGの7エネルギーの使用量からCO₂排出量を算出し、環境マネジメント推進室会議において前年度同時期及び前月との比較を行い報告した。
- ②部局ユニット別に毎月の電力使用量のCO₂排出量の算出、前年度同時期及び前月との比較を実施した。

成果

総エネルギー投入量が減少したことにより、二酸化炭素の排出量も減少した。2024年度は、前年度よりも約13.5%減の7,111t-CO₂となった。

●年度別二酸化炭素排出量

前年比 **-13.5%** ↓



東北電力：調整後排出係数0.402 t-/千kWh



化学物質排出量及び管理状況 ●化学薬品管理の全学一元化の推進

目的・目標

- 目的
実験廃液の適切な回収と不要化学薬品の処分を推進することで、化学物質が環境に与えるリスクを低減する。
- 目標
実験室内の実験廃液の保管量が、必要以上に増加することを防ぐために、月2回の定期回収を実施する。
不要となった化学薬品については、安全の確保と環境リスク低減のため、速やかな処分を推進する。

取組

- ・2024年度は、無機廃液を約3.1トン、有機廃液を約11.4トン、合計14.5トンの実験廃液を回収した。
回収した実験廃液は、外部に委託して処理した。委託先では環境に配慮した廃液処理を実施した。
- ・教職員向けのWebサイトで化学薬品の処分にに関する情報を公開し、185本の不要化学薬品を処分した。
- ・化学薬品の購入量と廃棄量を把握し、さらに、PRTR法の対象物質については、より詳細な移動量を把握した。
- 環境に配慮した廃液処分方法の採用
- 廃液処理のゼロエミッション化の推進
埋め立て量の削減を目指して、最終処分が発生した焼却残渣などを再利用している。
再利用の用途は、セメントの原料化、鋼鉄・非鉄原料化、油分は助燃剤や代替燃料として再利用している。
- 廃液処理の二酸化炭素削減
二酸化炭素の排出量の削減を目指して、中間処理では焼却を行わず、中和処理、凝集沈殿処理などを行っている。(ジクロロメタン含有廃液のみ焼却している)

成果・資料他

- ・2024年度は計22回の実験廃液および廃シリカゲルの回収を実施した。
- ・2024年度末の在庫数が前年度と比較して約600本減少した。

●2024年度の主な化学物質の購入量と廃棄量

	購入量 (kg)	廃棄量 (kg)
アセトン	1,477	1,225
メタノール	1,140	934
ヘキサン	680	694
ジクロロメタン	617	403
酢酸エチル	522	334
クロロホルム	429	277

2024年4月から2025年3月まで

●2024年度のクロロホルムの移動量

項 目	量 (kg)
2023年度末の在庫量 [A]	657
2024年度の年間購入量 [B]	429
2024年度の年間使用量 [C]	502
年間使用量のうち廃棄量 (廃液) [C-1]	278
年間使用量のうち大気放出量 [C-2]	224
2024年度末の在庫量 [D]	584

$[C] = \{[A] + [B]\} - [D]$

$[C-2] = [C] - [C-1]$

グリーン購入の状況 ●グリーン購入法に基づく購入の推進



岩手大学における「環境物品等の調達をを図るための方針」に基づき、環境ラベル認定製品や省エネルギー基準適合製品を優先的に購入しています。

- ▶環境物品等の調達の推進を図るため方針について：

<https://www.iwate-u.ac.jp/upload/choutatsuhoushinR7.pdf>

- ▶環境物品等の調達実績：

<https://www.iwate-u.ac.jp/upload/kankyou-zissekiR6.pdf>



環境配慮型製品掲載カタログ

総排水量 ●下水道への環境負荷物質の排出量

取 組

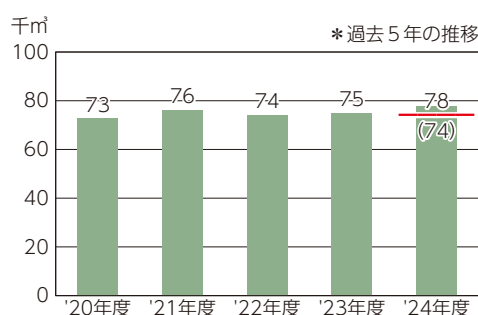
- ①水質検査方法に従い、年3回外部委託により水質検査を実施した。
- ②グリスストラップでの吸着マットの使用による油脂除去を中央食堂、理工学部食堂、農学部食堂で週3回の吸着マットの交換作業により実施した。
- ③食堂排水系統の排水管の高圧洗浄を実施した。

成 果

教育学部系統の排水において「生物化学的酸素要求量（BOD）」が810mg/L（基準値600mg/L以下）、ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動物性油脂類）が基準値110mg/L（30mg/L以下）と排除基準を超えた。原因の特定に至らなかったものの、排水管理の徹底を図る旨のメール周知を行った。対応後の再測定の結果は許容値内であることを確認した。

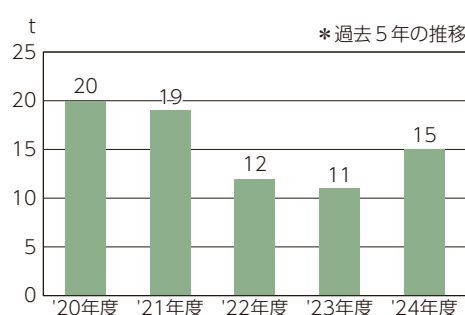
●生活・実験排水量

前年比 **+4.0%↑**



●BOD汚濁物質排出量（推測量）

前年比 **+36.4%↑**



廃棄物など総排出量 ●廃棄物の分別とリサイクルの推進



取 組

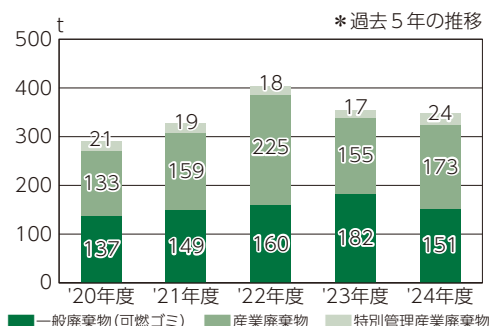
- ①環境マネジメント学生委員会がリサイクルの推進に向けた企業と共同で行ったリサイクリエーションを学内に周知し、詰め替え容器の回収を図った。
- ②一斉廃棄物収集の際に小型家電のリサイクルを率先した。
- ③部局ユニットにおいて不要な物品・什器類・備品についての情報を学内発信し、学内リユースを進めた。

成 果

詰め替え容器は環境マネジメント学生委員会の周知の工夫などにより目標数の9割ほどの回収が進んだ。可燃物151t・産業廃棄物173t・特別管理産業廃棄物24tの合計348tと2023年度より6t減少した。学内リユースは8部局ユニットから延べ12回の案内周知があり、什器等の再利用が進んだ。

●廃棄物の排出量

前年比 **-1.69%↓**



■一般廃棄物(可燃ゴミ) ■産業廃棄物 ■特別管理産業廃棄物

有害物質などの漏出



毒劇物を含む化学薬品並びに実験廃液等の有害物質の環境への漏出は、2024年度には発生していません。

生物多様性の保全



遺伝子組換え生物等安全委員会は、実験の安全かつ適切な実施を確保するため、学長の諮問に応じて、遺伝子組換え生物等に関する次に掲げる事項について調査審議し、これらの事項に関して学長及び部局等の長に対し助言又は勧告するとともに、必要に応じ実験責任者及び安全主任者に対し遺伝子組換え生物等の安全管理に関する報告を求めています。

- ・安全管理に関する規則の制定改廃
- ・実験計画の法令等及びこの規則に対する適合性
- ・実験従事者の教育訓練及び健康管理
- ・事故発生の際の必要な措置及び当該事故予防のための改善策の策定
- ・その他の安全確保に関する必要な事項

委員会では、岩手大学遺伝子組換え生物等安全管理規則第12条に基づき、環境中への遺伝子組換え生物等の拡散を防止するとともに遺伝子組換え生物等実験の安全な実施を目的に、年1回以上の教育訓練を実施しており、本学で遺伝子組換え生物等実験を行う者全員に受講を義務付けております。

(令和6年度実施内容（オンライン）)

- ・挨拶
前岩手大学遺伝子組換え生物等安全委員会委員長 西山 賢一（農学部教授）
- ・講演1（新規従事者向け）「初心者に注意して欲しいポイント」
菅野 江里子（理工学部准教授（現：農学部教授））
- ・講演2「遺伝子組換え生物等実験を行う際の注意事項」
板垣 匡（岩手大学名誉教授）
- ・講演3「遺伝子組換え実験を安全に行うために」
岩手大学遺伝子組換え生物等安全委員会副委員長 安川 洋生（教育学部教授）
- ・確認クイズ記入・送信

※講演2及び講演3：既に遺伝子組換え実験に従事している方向け

岩手大学は環境目的及び目標に沿って法規制等を遵守し、環境負荷の高い活動の特定や環境方針並びに環境目標から逸脱することの内容に運営管理を行っています。また、維持するために必要な運営基準を定めています。

関連事業者に対しては、文書による岩手大学環境方針の理解、キャンパス内の緊急事態発生時における対応や環境配慮行動計画書の提出などの協力を要請しています。

－ 特定関連事業者の皆様への環境配慮のお願い －(概要)

岩手大学では、環境マネジメント規格であるエコアクション21に則り、環境マネジメントシステムを導入しております。つきましては、**岩手大学環境方針**をご理解いただき、当大学と共に環境への負荷の少ない緑豊かなエコキャンパスづくり及び**緊急事態における対応**にご協力をいただけますようお願いいたします。

本学での事業実施において、使用エネルギー量・負荷ともに環境に与える影響が大きい特定関連事業者(建設・工事事業者で1契約3,000万円以上又は工期2ヵ月以上)の皆様におかれましては、大変お手数ではありますが、別紙の**環境配慮行動計画書**をご提出いただけますようお願いいたします。

なお、貴社の業務に関係して、岩手大学側における環境保全上対応すべきと感じられた場合には、岩手大学環境マネジメント推進室(ems@iwate-u.ac.jp)まで、ご連絡いただければ幸いです。

1. 岩手大学環境方針について
2. 緊急事態における対応について
3. 環境配慮行動計画書について

必要伝達事項	関連法規制	
①環境への負荷の少ない建築(設)資材や、リユースやリサイクルに寄与できる建築(設)資材を、選択するよう心がけること。	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律 (建設リサイクル法)	特定の建設資材について、再生資源の十分な利用及び廃棄物の減量等を通じて、資源の有効な利用、廃棄物の適正な処理を図る。
②建築・建設に伴う大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭などを防止すること。	騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法	建設工事に伴って発生する相当範囲にわたる騒音、振動、悪臭について必要な規制を行なうとともに、生活環境を保全する。
③建築・建設に伴う建設廃材や残土を適正に処理すること。	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)	廃棄物の排出の抑制、適正な分別、保管、収集、運搬、再生、処分等の処理をし、生活環境を清潔にすることにより、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る。
④自動車等のアイドリングストップに努めること。	・自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車NOX、PM法) ・特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律	自動車から排出される窒素酸化物等の排出の抑制のために必要な措置を講ずるよう努める。特定特殊自動車排出ガスの排出を抑制する。

マテリアルバランス



岩手大学が行っている教育・研究・社会貢献・企画・運営・管理・学生の自主活動では、電気・ガス等のエネルギーや水・紙などの資源を消費し、環境に負荷を与えています。本学に関わる主なエネルギーと資源の投入量と排出量を示します。

●マテリアルバランスデータ

Input



電 気
12,469 千kWh



軽 油
34 kℓ



都市ガス
655 千m³



液化石油ガス
2,628 kg



ガソリン
30 kℓ



A重油
94 kℓ



灯油
54 kℓ



紙 (A4判換算)
744 万枚



水道
78 千m³



化学物質
8.6 t



Output

温室効果ガス排出量
7,111 t-CO₂

一般廃棄物量
151 t

産業廃棄物量
173 t

下水道
78 千m³

硫黄酸化物
0.38 t

実験廃液
14.5 t

BOD汚濁物質排出量
15 t

外 部 へ の 排 出

東北電力温室効果ガス算出排出係数（調整後）：
東北電力0.000402t-CO₂/kWh



環境会計に関する情報



●環境コスト

2024年度に環境負荷低減のために投入した環境保全コスト（人件費は除く）は、投資額約9,291万円、費用額約3,757万円となりました。投資額・費用額ともに前年度より減少しています。

	年度（千円）		年度（%）		内容
	投資	費用	投資	費用	
(1) 事業エリア内コスト	92,911	31,030	80%	95%	
	92,911	31,030		95%	
(1)-1公害防止コスト	0	2,216		27%	
①大気汚染防止コスト		1,238		18%	アスベスト、ダイオキシン類の調査・分析・除去、ボイラ等のばい煙測定
②水質汚濁防止コスト		688		62%	汚水排水管・測定柵の設置・清掃（排水水質分析、油水分離装置の設置）
③土壌汚染防止コスト		290		100%	土壌汚染物質測定
④騒音防止コスト		0			
⑤悪臭コスト		0			
⑥その他公害防止コスト		0			
(1)-2地球環境保全コスト	92,911	0	80%		
①地球温暖化防止及び省エネコスト	92,911		80%		断熱材・防水、高効率証明・高COP型空調機器の設置、ペアガラス、全熱交換器の設置
(1)-3資源循環コスト	0	28,814		118%	
	0	28,814		118%	
①資源の効率的利用コスト					
②廃棄物処理・処分コスト		28,814		118%	産業廃棄物、廃液、廃試薬、RI廃棄物、可燃ごみ、落ち葉等の処分、不燃物リサイクル
③PCB廃棄物処理コスト					
(2) 管理活動コスト	0	6,152		81%	
①環境マネジメントの整備・運用コスト		729		81%	
②環境報告の開示及び環境告知コスト		322		46%	環境報告書作成
③環境負荷監視コスト		3,905		100%	定期排水分析検査
④教職員及び学生への環境教育等コスト		1,196		98%	EMS学生委員会活動経費、教育研修、学外実習
⑤緑化・美化等の環境改善対策コスト		0		0%	
(3) 社会活動コスト	0	0			
①事業所を除く緑化、美化等コスト					
(4) 環境損傷等コスト	0	390			
①損害賠償等コスト		390		99%	汚染負荷量割賦金
合計	92,911	37,572	80%	93%	
合計（PCB廃棄物処理コスト込み）	92,911	37,572			

3 環境負荷低減への取組

環境保全効果・ 環境保全対策に伴う経済効果



事業活動に投入した資源に関する環境保全効果における総エネルギー量は、前年度より減少となりました。事業から排出される環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果における一般廃棄物は、前年度比で17%減少しました。

環境保全対策に伴う経済効果では、PCB処分の関係で廃棄物処分費が増加しています。全体では、前年度比0.5%の約273万円増加しました。

●環境保全効果

事業エリア内で生じる 環境保全効果の内容	環境保全効果を示す指標		
	指標の分類	2024年度	対年度比
INPUT 事業活動に投入する資源に 関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (GJ)	160,478	97%
	電気 (千kWh)	12,469	96%
	都市ガス (千m ³)	655	98%
	液化石油ガス (kg)	2,628	104%
	A重油 (kℓ)	94	108%
	灯油 (kℓ)	54	95%
	ガソリン (kℓ)	30	97%
	軽油 (kℓ)	34	113%
	水道 (千m ³)	78	104%
	化学物質 (PRTR法対象化学物質) (t)	2.5	78%
	用紙A4版換算 (万枚)	744	98%
	トイレットペーパー (千ロール)	57	121%
OUTPUT 事業活動から排出する 環境負荷及び廃棄物に 関する環境保全効果	温室効果ガス	7,111	87%
	硫酸酸化物 (t)	0.38	100%
	一般廃棄物 (t)	151	83%
	産業廃棄物 (t)	173	110%
	PCB廃棄物 (t)	0.413	
	下水道 (千m ³)	78	104%
	実験廃液 (t)	14.5	98%
	BOD汚濁物質排出量 (推定値) (t)	15	136%

産業廃棄物 (t) = (経理課データ：産業廃棄物) + (経理課データ：特別管理産業廃棄物 (実験廃液を含む)) - (安全衛生管理室データ：実験廃液)

●環境保全対策に伴う経済効果

効果内容	2023年度支払額 (千円)	2024年度支払額 (千円)	対前年度増減額 (千円)	対前年度比
光熱水費	541,800	540,076	-1,724	99.7%
電 気	390,541	380,350	-10,191	97.4%
ガ ス	87,045	92,893	5,848	106.7%
水 道	45,570	46,844	1,274	102.8%
A重油	11,303	12,790	1,487	113.2%
灯 油	7,341	7,199	-142	98.1%
廃棄物処分費	24,364	28,813	4,449	118.3%
廃棄物	20,438	24,940	4,502	122.0%
廃 液	3,926	3,873	-53	98.7%
合 計	566,164	568,889	2,725	100.5%

2024年度トピックス

令和6年度（2024年度）「岩手大学環境人材育成プログラム」 学内認定資格「岩手大学環境管理実務士」授与式を挙行了しました。

令和7年（2025年）3月13日、「岩手大学環境人材育成プログラム」学内認定資格「岩手大学環境管理実務士」授与式が、岩手大学学長室で挙行されました。

「岩手大学環境マネジメントと産学官民連携を活用した「 π 字型」環境人材育成プログラム」（岩手大学環境人材育成プログラム）は、2009～11年度に環境省「平成21年度環境省「環境人材育成のための大学教育プログラム開発」採択事業「ISO14001と産学官民連携を活用した『 π 字型』環境人材育成プログラム」として開発されました。2012～2024年度、岩手大学環境マネジメント推進室で運営してきました。

岩手大学の4学部生を対象に、環境教育・ESD（持続発展教育）・EMS（環境マネジメントシステム）を組み合わせた「環境人材」を育成するプログラムです。所定の要件を満たした学部生には、「 π 字型」環境人材の証として、岩手大学長から学内認定資格「岩手大学環境管理実務士」認定証が授与されます。

[岩手大学環境マネジメント推進室ホームページ「環境人材育成」](#) 参照。

授与式には、所定の要件を満たした後藤優幹さん（人文社会科学部3年生）が出席。小川智学長から、「岩手大学環境管理実務士」認定証が授与されました。

今回で24名の岩手大学学部生（授与当時）が、「岩手大学環境人材育成プログラム」学内資格「岩手大学環境管理実務士」の認定を受けました。

[岩手大学環境管理実務士授与者一覧表](#) 参照。

岩手大学環境人材育成プログラムは、令和7年度（2025年度）から、岩手大学地域協創教育センターが担当している全学部生対象の共修プログラム「イーハトーヴ協創コース」履修モデル5「環境人材育成」に名称・内容をリニューアルして続けられています。

[イーハトーヴ協創コース「履修モデル」](#) 参照。



「岩手大学環境管理実務士」授与式の様子

学部・学科の
環境教育

環境教育一覧

教養教育「環境科目」

「環境」を考える／生活と環境／都市と環境／地球環境と社会／水と環境／廃棄物と環境／植物栽培と環境テクノロジー／森林と環境／動物と環境／人の暮らしと生物環境 etc.

人文社会科学部

総合科学基礎（地域政策）A・B／環境政策論Ⅰ・Ⅱ／環境経済論A・B／
環境社会学Ⅰ・Ⅱ／環境生態学A・B／自然環境学A・B／環境科学演習／環境科学実験／
環境社会調査実習／環境社会調査演習／地域環境マネジメント実践演習／環境経済論特講 etc.

教育学部

人文地理学概論A／小学校社会／小学校理科／生物学A／理科教育法Ⅳ／地学実験Ⅰ・Ⅱ／理科教育実験特講Ⅰ・Ⅱ／生物学実験Ⅰ etc.

理工学部

ソフトパス理工学概論／入門地域創生論／環境工学／エコ材料学／環境とエネルギー／燃焼工学／
大気環境工学／水環境工学／施工法／地盤環境工学／資源循環工学／生態環境保全学 etc.

農学部

生物学／地学入門／農学概論／作物栽培学／植物生理学／応用昆虫学Ⅰ・Ⅱ／環境植物生理学／
植物栄養学・肥料学／土壌環境微生物学・生化学／公衆衛生学／食品加工物理化学／森林科学入門／
森林造成学／森林造成学実習／環境防災学／NPO・環境ガバナンス論／砂防学実習／
環境と樹木の生理／森林保護学／食料生産環境学概論／緑地環境学／環境修復学／
栽培施設学Ⅰ・Ⅱ／農業気象・環境学／食産業システム学演習／水産科学入門／水圏環境学／
ミクロ経済学入門／自然環境論／漁業資源生態学／草地学／動物資源利用学Ⅰ・Ⅱ etc.

総合科学研究科

研究科共通科目：

グローバル環境科学特論／グローバルエネルギー特論

地域創生専攻：

植物環境制御学特論／水産資源生態学特論／環境経済論特論／地域環境政策特論／地域環境社会学特論／
水資源・環境制度特論／社会基盤・環境工学特論／水環境工学特論／地盤環境工学特論
etc.

理工学専攻：

ソフトパス理工学特論／エネルギー材料理工学特論／環境センシング／地域デザイン／燃焼工学特論 etc.

農学専攻：

作物栽培学特論／農業技術学特論／環境土壌学特論／動物資源利用学特論



農学部 地域環境科学科 **武藤 由子** 先生



環境マネジメント学生委員会



大堀 倫果（農学部3年 右側）
熊谷 恭輔（農学部3年 左側）

担当環境科目：水と環境

概要：人間が自然と共存していく上において、無くてはならない水の重要性を認識することに主眼をおいて講義が行われる。水環境概論から始まり、水環境問題への生物的・化学的接近および物理的接近、海洋・河川における水環境、水資源管理のソフトパスとハードパスといったテーマへと、体系だった講義が展開される。

Q1

現在どのような研究を行っていますか。

武藤先生

「土壌物理学」という分野を専門にしており、土壌の中で水や肥料成分が植物の根の吸収によってどのように移動し作物の生育にどう影響しているのかを研究しています。研究の目的は、品質が良くてできるだけ安価な作物を効率よく生産する方法を見つけることと、環境への影響および保全との関係を調べることです。

Q2

環境問題を考えるうえで重要だと思うことを教えてください。

武藤先生

基本的な知識を幅広く身に着けることが重要であると思っています。環境は、生物を土台に様々な化学変化や生物活動が行われている場所です。しかもそれぞれが互いに影響を与えているため、環境問題について考えるときには様々な変化に対応しながら総合的に考え判断しなくてはなりません。その判断の際に基本的な様々な知識が必要になってくると考えています。



Q3

研究の課題と展望について教えてください。

武藤先生

常に大きく状況が変化していく中で、どのような農業の方法を選択するかが重要となってきます。農業の手法によってその土地の土壌の性質や生産性、どれだけ環境保全に貢献できるかが変わってくるためです。時代や土地環境のニーズに合わせた農業のやり方を見つけるためにも、どこに焦点を当てて研究するかを大事にしています。研究では、主に複雑な現象を単純化する手法による室内実験を行っています。農地で実際に起こっている現象を把握するための圃場モニタリングも行っています。

Q4

学生に、環境問題に対してどのように向き合ってほしいか教えてください。

武藤先生

幅広く基本的な知識を身に着けてほしいです。その後、生活の中で課題を発見しその課題に対してどのようにアプローチして解決に繋げるかといった、一連の流れを知ってほしいと思います。岩手大学の履修プログラムはそれができるように構成されています。専門外の知識も身に着け、講義ごとに関連性を見出し、広い分野で物事を考えてほしいです。その経験が後に、卒業研究や卒業後の社会の専門分野で活かされると考えます。そして、普段から様々な物事に対して想像力を膨らまし考える時間を少しでも意識してほしいなと思っています。

学部・研究科の環境研究



教員の研究テーマ

人文社会科学部

- ・海洋プラスチック汚染発生抑制への対応進捗状況と課題-北上川上流・岩手での取り組みを中心に-

教育学部

- ・環境負荷低減を目的とした洗浄および染色方法の構築
- ・教育現場で活用できる簡易水質分析法に関する研究

理工学部

- ・水環境の保全と評価に関する研究
- ・大気汚染物質の簡易モニタリング法に関する研究
- ・排水中抗菌性物質の除去処理法に関する研究
- ・廃棄物を利用した環境浄化材の開発
- ・土壌中の粘土鉱物へのセシウムの吸着動態に関する研究
- ・ヒ素を含有する貯水池堆積物の処理手法の開発
- ・肥料利用に向けた下水汚泥の無害化と有用元素類の回収

農学部

- ・微生物によるバイオプラスチック合成
- ・ゴム廃棄物からプラスチックへのダイレクトアップリサイクル技術の開発と高効率化
- ・産業廃棄物を原料としたグリコール酸高分率コポリマー創製のための代謝工学戦略
- ・減圧マイクロ波による低環境負荷型乾燥法の確立：品質と環境負荷の最適化を目指して
- ・森林ガバナンスに関する研究
- ・人工林におけるスギの成長と環境生理

学生の卒業論文・修士論文・博士論文の研究テーマ

人文社会科学部

- ・既存住宅の高気密・高断熱化普及のための取り組みと課題
- ・地域環境における野焼きの健康リスクに関する研究
- ・北上川流域における環境残留医薬品の実態に関する研究
- ・食品添加物から生じる塩素化体とその環境リスクに関する研究
- ・都道府県別にみる農業の健康リスクに関する研究
- ・盛岡市内における水道水のマイクロプラスチック汚染に関する研究
- ・北上川流域における有機フッ素化合物PFOAおよびPFOS汚染に関する研究
- ・化粧品に含まれるマイクロプラスチックおよび関連物質の環境負荷に関する研究
- ・食品ロス対策としてのフードシェアリングの可能性-地方都市での実践例を参照して
- ・原子力発電に関する賛否：距離と属性

教育学部

- ・簡易的なアクアポニックスによるリーフレタスの栽培に関する研究
- ・「震災の語り継ぎ」の実践としての演劇教育の考察とその可能性の探究
- ・環境負荷低減を目的とした染色への機能水の活用
- ・洗浄機構に関わる流体力の検討
- ・栽培におけるプランター利用に関する研究
- ・体積相転移ゲルを用いた汚染水の浄化
- ・デジタルカメラを用いた二酸化炭素の簡易分析法の開発

理工学部

- ・余剰汚泥分離液からの肥料成分の回収に関する研究
- ・画像解析による飛散粉じん量推定のための撮影条件の検証とドローンを用いたモニタリングへの展開
- ・シールド残渣を用いた過硫酸法によるトリクロロエチレンの分解
- ・下水処理水放流河川での抗菌剤の挙動
- ・鉄（Ⅵ）酸塩と浄水汚泥を併用して不溶化したヒ素の再溶出性の評価
- ・GISを利用した砕石場内の植生樹木によるCO₂吸収量算定に関する検討

農学部

- ・廃棄アクリロ-ニトリル-ブタジエンゴムを原料とした生分解性プラスチックの微生物合成
- ・生物多様性保全のための傷病野生鳥獣保護における各種団体の役割-オーストラリアQLD州を事例に-
- ・最新伐後約20年経過したコナラ広葉樹二次林の林分動態-保残木密度の違いが最新木成長に与える影響-
- ・皆伐施業におけるタワーヤード集材と車両系集材の生産費用及びCO₂排出量の比較
- ・大畑ヒバ施業実験林における択伐がその後の上木の成長と天然更新に与える影響
- ・ため池内の環境条件の近いとゲンゴロウ (Cybister chinensis) の生息状況の関係-盛岡市北部郊外のため池における考察-
- ・土壌・林相に基づくオニグルミの成立環境
- ・ダイコンの流通段階における環境負荷の要因分析-段ボールとプラスチックコンテナのLCA-
- ・生殖の導入を目的とした石炭岩鉱山捨石集積場の土壌改良-2016年からの経年変化-
- ・食品ロス率を説明変数とした台湾への輸出リンゴの環境負荷の感度分析
- ・岩手大学上田キャンパスにおける野生哺乳類の出現傾向と環境選択性
- ・ニジマスの高温耐性評価に関する研究-三陸サーモン養殖の温暖化対策に向けて-



教育学部 家政教育科 **天木 桂子** 先生



環境マネジメント学生委員会



大堀 倫果（農学部3年 左側）
横山 結花（教育学部2年 右側）

研究テーマ：

**環境負荷低減を目的とした
洗浄および染色方法の構築**

Q1

現在どのような研究を行っていますか。

天木先生

洗濯が環境にかけている負荷を減らすための方法を研究しています。洗濯は石油からなる洗剤と大量の水を使うため少なからず環境に負荷を与えていますが、人々の清潔を維持するために生活に欠かせないものです。毎日の洗濯の環境への負荷を少しでも減らせればいいなと思っています。

Q2

環境問題を考えるうえで重要だと思うことを教えてください。

天木先生

実験室で得られた結果やデータを社会で一般の人々が使えるものにすることが重要だと考えています。例えば、実験室である洗剤が環境にも負荷をかけずかつ汚れも落とせる優秀な洗剤だと判明したとしても、それが1g 1,000円の高価なものだった場合それを使ってもらうことは難しいです。ある程度の洗浄力があって安価な洗剤の方が好まれると思われます。そのため実験で得られたデータを社会に役立たせたいと考えた時にはその方法に工夫が必要です。そして、最終的にどの洗剤や方法を選ぶかは消費者に委ねられるため、実験室で得られたデータを嘘偽りなく社会に出すことも研究者にとって大事なことだと思います。

Q3

研究の課題と展望について教えてください。

天木先生

人々が清潔さを重視するようになった結果、洗濯回数は昔よりも増えてきています。それは環境への負荷も大きくなっているということですが、清潔感は個人の気持ちに大きな影響を与えるため環境負荷があるからといって洗濯を少なくさせることはできません。その点に矛盾を抱えながら研究しています。ただ、1回の洗濯での環境負荷量を1%でも減らすことができ、それを沢山の人が毎日行えば環境保護に大きく貢献していると思えるため、洗剤を完全になくす必要はないと考えています。

Q4

学生に、環境問題に対してどのように向き合ってほしいか教えてください。

天木先生

環境に対してできることを小さなことでも意識してもらえたらと思っています。岩手大学には約5,000人の学生がいますが、例えば1回レジ袋を節約するだけでも皆ができれば5,000枚節約できます。小さなことでも積み重ねたら大きなことになりますので、普段から色々な場面でも環境のことを考えてもらえたら嬉しいです。



附属学校の環境教育活動



附属幼稚園

附属幼稚園では、環境教育として、年齢の発達に並び、花や野菜を植えたり、世話をしたりする体験を通して、植物に親しみをもち、生命の営みに気付いたり、大切にしようとしたりする心を育てる活動に取り組みました。

●一人一鉢栽培

年長組は、一人一鉢ずつインパチェンスの苗を植えました。花育アドバイザーの佐藤さんに教えていただきながら、ポットを逆さまにして苗を取り出し、そっと自分の鉢に移しました。優しく土をかけ、元気に育つように願いを込めて水をやりました。みんなで植えた色とりどりの花がきれいに咲いているのを眺めながら園庭で遊んだり、自分の植えた花は元気に咲いているだろうかと近くに行き観察してみたり、花の様子の変化に気付いたりなど、花を身近に感じ大切にしたい気持ちを育む機会となりました。



●野菜の栽培

年少組は牛乳パックを鉢にしてつるなしインゲンの栽培をしたり、植木鉢で栽培したイチゴやピーマンを観察したりしました。

年中組は、畑で二十日大根を栽培し、その生長を楽しみにしてきました。

年長組は、園の畑やプランターに、ジャガイモ、ピーマン、ミニトマト、ナス、キュウリ、そして中学校の畑を借りてサツマイモを植え、その生長に期待したり、それぞれの成長の違いに興味をもったりしながら関わってきました。収穫したピーマンを生で味わったり、ジャガイモをカレーにいれたり、サツマイモは焼き芋にしたりしてみんなでおいしくいただきました。



野菜の栽培を通して、野菜への関心や食への興味をもつとともに、収穫の喜びや感謝の気持ちが育まれる機会となりました。

●種団子作り・チューリップの球根植え

年中組は、秋に、花育アドバイザーの佐藤さんに教わりながら土を丸めた団子に様々な花の種をまぎした種団子を作りました。



年長組になる春には、どんな花が咲くか楽しみにしながら植えました。

附属小学校

附属小学校では、「ゆたかな感性を働かせる子供」の育成を目指し、五感を使い体験的に学ぶ活動を推進してきました。例えば、1・2年生では生活科を中心に、3年生から6年生はわかたけタイム（総合的な学習の時間）や各教科等の学習において、体験的に学びながら環境学習の充実と発展に取り組んでいます。

●4年生わかたけタイム「みんながみんなにやさしいところ 盛岡市動物公園ZOOMO」の実践より

自分たちの身近にあり、2023年にリニューアルオープンした盛岡市動物公園（ZOOMO）の魅力について、それぞれが問いをもち、実際に見学して調査したり、施設の方をゲストティーチャーに呼びお話を聞いたりすることを通し、追究を進めました。その中で、ZOOMOの理念である「Oneworld Onehealth」（ヒトと家畜と野生動物の健康、われわれすべてを支える基盤となる生物多様性の保全には、水や土壌、空気など環境そのものの清浄性、健全性が大切だという考え方）を知った子供たちは、それが具体的に何であるかについて関心を高め、今までに調べてきたことと関連付けながら追究を深めました。



リーフレットを用い、環境問題やZOOMOの理念を地域の方々に説明しました。

その結果、動物公園部分以外に広がる里山もZOOMOの一部であり、環境保全がなされていること、地球規模の環境問題が里山にも影響し、生態系の変化が見られること、人為的な原因などにより傷ついたり調子を崩したりした動物の手当てをする動物病院があり、老朽化していること、病院が機能しなければ里山の動物たちの健康が損なわれ、環境全体に影響がおよぶことなどが分かり、自分たちができることについて考えた子供たちは、一人一人の「ZOOMOオリジナルリーフレット」を作成して地域の方々に発信することにしました。

肴町アーケードで行われた発信活動においては、子供たちが地域の方々にZOOMOの魅力や「Oneworld Onehealth」についてプレゼンをしながらリーフレットを手渡し、受け取った方々からは、「環境問題についてよく分かった」「ZOOMOの理念を体現する動物病院建設を応援したい」などといった肯定的な声が数多く寄せられ、地域への貢献ができました。



日の当たり方によって葉の色が違ふことに気が付いた子供。自然の不思議さに歓声が上がりました。

●1年生活科「たのしい あき いっぱい」の実践より

本単元は、学習指導要領の内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を行う」、および(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を行う」を受けて設定したものです。子供たちは、近くにある愛宕山に「秋みつけ」に行きました。どんぐりが豊作の年でしたので、子供たちは夢中になってどんぐりを拾ったり、きれいな落ち葉を見つけたりして、秋の様子を体全体使って楽しみました。ただ楽しむだけではなく、松ぼっくり一つ一つの大きさの違いに気付く子や、夏との風のふき方の違いに鋭く気付く子もあり、自然の不思議さや面白さを感じることでできた一日となりました。

見つけてきた松ぼっくりやどんぐりなどは、子供たちの「動物を作りたい」という願いにあわせ、工作の材料となりました。製作中も、「この葉っぱはカラフルだから、耳の部分にしよう」や、「松ぼっくりは思ったよりごつごつしているから、これで恐竜を作ろうかな」といったつぶやきが聞こえ、活動の最後には、「もっともっと自然を見つけない」「他の季節の自然も探しに行きたい!」などの声があがり、身近な自然環境への興味や関心が高まった様子を見て取ることができました。

附属中学校

地球の環境を守り育む姿勢と自然を愛し敬う心を育て、環境美化活動や持続可能な社会を目指した取組を行っています。

●校舎内外の環境美化活動の取組

- ・文化活動として毎日行う清掃活動
- ・校地周辺の清掃活動(近隣施設の清掃、学校周辺の落ち葉清掃・雪かきなど)
- ・係活動によるプランター整備作業と花の管理
- ・トレーニングセンターや校外学習などの学年行事による活動



清掃の様子



校地周辺での自主的なゴミ拾い活動



校外学習での森を守る学習体験活動

●持続可能な社会の実現を目指した活動の取組

- ・各教科での持続可能な社会の実現に向けた学習活動
- ・学校全体における古紙回収
- ・ごみの分別とリサイクル活動の推進

●環境問題を扱った授業実践

- ・社会、理科、英語、道徳、総合等における環境題材を扱った授業
- ・作物の育成環境を学ぶための地域企業と連携した野菜の栽培
- ・私たちにできることを授業で考え、交流・討議

附属特別支援学校

作業学習などの授業や生徒会活動で環境について考えることや環境に配慮した取組を行っています。

●作業学習

〈中学部・石けん班〉

食用油の廃油を利用した石けんづくりに取り組み、「はちみつみたいな石けん」の名で附属四校園の保護者や地域の方に環境に優しい石けんとして広く利用いただきました。



石けん班

〈中学部・クラフト班〉

地域のりんご園で剪定した枝を加工した工芸品を製作しました。焼却処分されていた枝を利用することでCO₂排出量削減への取組を考えるきっかけとなりました。



クラフト班

●生徒会活動

〈高等部・環境委員会〉

校内の環境整備やエコキャップ活動に取り組んでいます。エコキャップ活動では児童生徒、保護者、職員にペットボトルの回収を呼びかけ、洗浄、分別等を行っています。



環境委員会

〈中学部〉

職員や保護者、地域の方に呼びかけ、空き缶・空き瓶・古新聞・段ボールなどの資源回収を行いました。仕分けや積み込みの作業を通して、ゴミの減量やリサイクルへの意識が高まりました。



リサイクル活動

5 地域における環境コミュニケーション

2024年度トピックス



奥州市と岩手大学の連携による環境への取り組み

研究支援・産学連携センター（奥州市共同研究員） 砂子田 康文

岩手大学と奥州市は、平成14年（2002年）に旧水沢市と「相互友好協力協定」を締結し、平成16年（2004年）には旧江刺市とも締結しました。さらに平成18年（2006年）に市町村合併により、奥州市と改めて相互友好協力協定を締結し、同時に奥州市鋳物技術研究センター内に岩手大学鋳造技術研究センター（水沢サテライト）を開設。主に鋳造企業の技術発展と産学連携による研究開発や、人材育成などに多大な貢献をさせていただいております。奥州市職員が共同研究員として、岩手大学に派遣されていることも連携の一環であり、私はその7代目になります。

奥州市では、現在GX（グリーン・トランスフォーメーション）推進室を設置し、脱炭素への取組を推し進めていく体制を整えております。さらに、令和6年（2024年）8月に「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」を目指すことを表明しました。

また、令和2年度（2020年度）から岩手大学と共催で「地域企業×岩手大学×奥州連携フォーラム」を開催しています。岩手大学教員の研究シーズ等の発表のほか、地域企業の先進事例や産学連携事例等を発表し、岩手大学と地域企業をつなぐきっかけとなっています。令和3年度（2021年度）と令和6年度（2024年度）に開催した地域連携フォーラムは、「環境」や「脱炭素・カーボンニュートラル」をメインテーマとして行いました。

令和3年度の地域連携フォーラムでは、基調講演として人文社会科学部の中島清隆先生にご登壇いただきました。カーボンニュートラル・脱炭素の重要性とその実現に向けた多角的なアプローチの事例を取り上げていただき、特に奥州市や岩手大学の具体的な取り組みについてご紹介いただきました。

令和6年度の地域連携フォーラムでは、「脱炭素革命～地域から描く新時代～」と題し、特別講師として環境省から環境専門調査員を招聘して、世界的な企業の脱炭素の取組や、その波及効果について詳しく説明いただき、それが地域にどのような影響を与えるかについてご講演いただきました。その中で、中小企業で先進的な脱炭素の取組を行っている企業にも登壇いただき、脱炭素に取り組んだ経緯や、具体的な取り組み内容などを発表いただきました。参加者からは、「脱炭素について、もっと勉強が必要と思った。参考になる部分もあったので、自社でも一つずつ取り組んでいきたい」といったお声や、「省エネという考え方が、結果的に脱炭素やカーボンニュートラルにつながっているということを知れて、取り組みに対するハードルが下がったと感じた」などといった感想が聞かれ、脱炭素に対する活動の啓発に繋がった大変良いきっかけとなりました。

脱炭素の実現には、自治体だけでなく地域を含めた取り組みが必須です。環境への取組を含めて、今後も岩手大学と連携を深めていく所存です。



地域企業×岩手大学×奥州連携フォーラムの様子

環境関連の 外部委員会などへの参画



●参画先別件数

省庁	岩手県	県内市町村	他県	各種法人	企業	その他	計
24	45	29	18	43	19	7	185

●主な参画先

	従事先	従事先の職名
省 庁	国土交通省東北地方整備局	北上川上流河道管理検討会委員
	林野庁東北森林管理局	東北森林管理局国有林野管理審議会委員
	環境省東北地方環境事務所	災害廃棄物対策東北ブロック協議会構成員
	環境省水・大気環境局	非食用農作物専用農業安全性評価検討会委員
	林野庁東北森林管理局	東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会委員
	林野庁東北森林管理局	東北森林管理局技術開発委員会委員
岩 手 県	岩手県環境生活部	岩手県公害審査委員
	岩手県農林水産部	いわて森のゼミナール運営業務企画提案選考委員会委員
	岩手県教育委員会	岩手県の火山活動に関する検討会委員
	岩手県環境生活部	いわてレッドデータブック改訂検討委員会委員
	岩手県環境生活部	希少野生動植物保護検討委員会委員
	岩手県環境生活部	岩手県自立・分散型エネルギー供給システム設計等支援事業費補助金審査委員会委員
県 内 市 町 村	盛岡市	盛岡市水道水源保護審議会委員
	盛岡市	盛岡市廃棄物対策審議会委員
	盛岡市	盛岡広域振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会委員
	釜石市	釜石市環境基本計画策定委員会アドバイザー
	滝沢市	滝沢市環境審議会委員
	花巻市	花巻市防災会議委員
各 種 法 人	特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて	環境学習交流センター・岩手県地球温暖化防止活動推進センター運営協議会委員
	国立研究開発法人森林研究・整備機構	国立研究開発法人森林研究・整備機構東北地域評議会委員
	公益社団法人日本水環境学会	日本水環境学会委員
	公益財団法人 地震予知総合研究振興会	下北半島周辺における地震活動等調査検討委員会委員
	一般社団法人日本森林学会	日本森林学会林業遺産選定委員
	一般社団法人日本養蜂協会	養蜂等振興強化推進事業推進委員会委員

環境問題に関する研究会など



- 岩手大学ネットワークシステム（INS）活動
 - ・エネルギー変換技術
 - ・環境リサイクル
- スマートエネルギー工学研究グループ
- 岩手農業研究協議会（AFR）
 - ・岩手・木質バイオマス研究会
 - ・木勉会（木を勉強する会）
- 農学部附属植物園の地域開放
- 教育学部附属自然観察園の地域開放
- 岩手大学ツキノワグマ研究会
- 有機農業研究会
- WILD野生動物研究会



岩手県花巻市太田地区を利用するツキノワグマの生息状況の解明

農学部森林科学科 野生動物管理学研究室 菊池 健斗 (2024年度4年生)

池田 小春 (総合科学研究科地域創生専攻修士2年生)

森林科学科 山内 貴義

〈研究の背景と目的〉

2000年以降ツキノワグマ（以下クマ）の分布域が拡大しており、市街地出没や人身被害の発生が増加しています。特に花巻市ではクマが高密度に生息しており、従来の生息地の森林と市街地の境界である緩衝地帯での個体の排除が急務になっています。本研究では緩衝地帯である太田地区を調査地として選定し、ヘア・トラップ（HT）を設置して体毛回収及び遺伝子解析を実施してこの地域でのクマの頭数を明らかにすることとした。また有害捕獲された個体の筋肉組織を回収し、体毛サンプルと比較調査しました。そして市街地への出没に至る原因を考察しました。

〈調査方法〉

花巻市太田地区の豚舎周辺及び旧観光果樹園を調査地として、HTを2024年6月上旬に設置しました（図2）。そして2～4週間間隔で体毛回収と餌の交換を11月までに8回行いました。体毛と筋肉サンプルからの遺伝子解析による個体識別法はYamauchi et al. (2014) に従いました。

〈結果と考察・クマ管理への提言〉

体毛サンプルは133サンプル分析し、86サンプルから結果が得られました。有害捕獲では4頭が捕殺されました。個体識別の結果、体毛からは32頭が確認され、そのうちの1頭が有害捕獲個体と遺伝子型が一致しています。つまり太田地区には少なくとも35頭のクマが確認されたことになり、HTを利用していない個体も一定数存在すると仮定すると、かなりの頭数が太田地区周辺を利用していることが明らかになりました。そのため数頭捕獲しても根本的な被害防除効果は薄いと判断できます。また太田地区ではエリアAとBからCまで移動していました。近くには河川があることから、河畔林内を移動しているものと想定されました（図2）。本研究の結果から河川を利用して市街地まで侵出する個体が常に緩衝地帯には控えていることが科学的に示されました。今後はHTのようなモニタリングを導入して適切な頭数へ誘導する施策を実施する必要があると提言したいです。

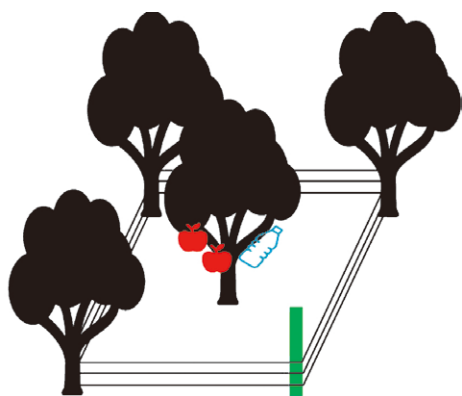


図1 ヘア・トラップ模式図

餌を吊るして周辺の立木に有刺鉄線を張り、餌を食べに来たクマが有刺鉄線に触れて体毛を回収する装置。



図2 花巻市太田地区の調査地

エリアAに4基、Bに5基、Cに4基のHTを設置した。

〈参考文献〉 Yamauchi K. et al. 2014. Mammal Study 39:191-200.

岩手大学『環境報告書2024』「ステークホルダーによる環境報告書の評価」で頂戴した提案に基づき、環境関連分野に取り組む岩手大学卒業生の活躍を紹介します。

現在、民間エネルギー企業で環境業務に従事されている五月女幸様のインタビューの概要を掲載します。



五月女様 & 「モリーちゃん」

岩手大学在学中の学びと活動

進学先として岩手大学を選んだ理由は、文系・理系を融合させた形で環境について幅広く学べる点に魅力を感じたためです。人文社会科学部環境科学課程（現：地域政策課程）でシステム物理学研究室に所属し、文・理両視点から環境問題を深く学び、多角的なアプローチの重要性を実感しました。期待以上の学びが得られたと感じています。

岩手大学において現在も活動している「環境マネジメント学生委員会（EMSC）」の立ち上げメンバーの1人として、組織運営をゼロから構築し、教職員との協働で岩手大学の環境マネジメントシステム（EMS）運営に関わり、また、学内の環境意識啓発にも積極的に取り組みました。さらに、内部監査補助員の学内資格を取得し、岩手大学EMS内部監査にも携わりました。特にEMSCキャラクター「モリーちゃん」は、当時私が描いたキャラクターであり大変印象深く、今でも愛されていることをとても嬉しく思っています。

岩手大学卒業後の進路と活躍

卒業後の進路は、環境問題に取り組める企業を志望し、エネルギー関連企業へ就職。営業や労務人事など様々な職種を経験しつつも、常に環境の仕事への思いを持ち続け、現在、環境業務に携わるようになりました。

た。温室効果ガス排出量算定や温暖化政策対応、社内環境マネジメント展開、社員への環境意識啓発、次世代育成などが主な業務であり、どれもやりがいを感じています。

就職活動では、岩手大学で環境分野を学び、EMSCで組織的な活動に取り組んだことを中心に積極的にアピールしました。特にEMSCで組織の立ち上げや周囲を巻き込みながら活動を進めた経験は、コミュニケーション能力や行動力として高く評価されたと感じています。企業側も、サークル活動とは異なる、教職員と協働する組織活動に強い関心を示してくれました。

岩手大学生へのメッセージ

環境はどの業界、どの企業においても切り離せないテーマです。私自身、最初から環境の仕事に就いたわけではありませんが、様々な業務経験が現在の環境業務の深みにつながっています。「何か×環境」「何か×持続可能性」といった形で、自分の興味と掛け合わせることで、多様な化学反応が生まれます。「環境」というワードに目を向けるだけでなく、様々な経験を積むことで、最終的に自分が置かれた場所で環境問題に貢献できるはずです。岩手大学から羽ばたく皆さんの未来は、何らかの形で環境・持続可能性に紐づくことでしょう。応援しています。

6 学生の環境活動

環境マネジメント学生委員会の取組



委員会活動について

委員長 三澤 寛暉（理工学部3年）

私たち岩手大学環境マネジメント学生委員会（EMSC）では、広報・WEB、グリーンキャンパス、環境教育、廃棄物、企画の5チームで構成されています。各チーム様々な環境活動に取り組んでいます。廃棄物チームではキャップ回収やゴミ分別調査、JUMPゴミ拾いを行っており、企画チームは環境視察研修やその他のレクリエーションなどの立案などを行っています。

昨年の委員会の全体的な活動としては、「いわてリサイクリエーションプロジェクト」や「トヨタソーシャルフェス」「いわてカーボンフリアクション（ICFA）」などを実施しました。また、チームごとの活動に加え、外部の活動も盛んに行うことで、より環境について考えを深め、たくさんの学びを通して良い経験をすることができました。

今年度は、以下の広報・WEBチームが紹介するように、ICFAの活動を多くして、他大学の学生などと様々な活動をしていきたいと考えています。

広報・Webチーム

広報・Webチームリーダー 大堀 侑果（農学部3年）

広報・Webチームは主な活動は、環境マネジメント学生委員会の活動をSNSアカウントで発信することです。大学内の学生だけでなく一般の人々にも我々の活動を知ってもらい、学生委員会や環境問題に対して興味を持ってもらえるよう努めています。

他には環境報告書や環境教育映像の作成を行っており、主に学内の学生や教職員の方々に向けて学生委員会の活動を紹介しています。

また、近年広報・Webチームとして「いわてカーボンフリアクション（ICFA）」と呼ばれる活動を新しく始めました。ICFAとは、県内3大学の学生が協働したプロジェクトチームで、岩手朝日テレビ様をはじめとした企業の方々にお力添えいただき脱炭素化に向けた広報活動を行っています。脱炭素化への暮らしのヒントを紹介するショート動画の作成が主な活動ですが、昨年は商店街での地元商工会の方々とのコラボブース出展や地域のSDGsフォーラムへの出席等、たくさんの貴重な機会に参加させていただき、より脱炭素社会への理解を深め自分達の意識を向上させることができました。

今後も学内外問わず様々な活動を通じて、学生や一般の人々の環境意識の向上につながるよう周知を行っていききたいです。

企画チームの活動

企画チームリーダー 新沼 遼佳（人文社会科学部2年）

企画チームは、委員会内の親睦を深めることや委員の活動に対するモチベーションの維持・向上を図ることを目的として活動しています。主な活動内容としては、新入生歓迎会、交流レク、環境視察研修です。

交流レクとは、新入生同士や上級生とのつながりを深めることを目的とした交流会です。昨年は、7月に盛岡市民体育館でドッジボール大会を行いました。このイベントを通じて、新入生は委員会内でのコミュニケーションがとりやすくなり、今後の活動などで自分の意見を主張しやすくなるため、今後の活動に積極的に参加する意欲が生まれます。

環境視察研修では、興味をひかれた環境活動を行っている自治体や団体などを訪れ、そこで行われている環境活動について学ぶ機会を設けています。また、訪ねた後に学んだことをスライドにまとめて、参加者にその自治体や団体の環境活動について学んだ知識を振り返ってもらうようにしています。

これからも、委員のモチベーションを向上できるように、委員会の活動が活発になるように取り組んでいきたいと思っています。



環境視察研修の様子

環境教育チームの活動

環境教育チームリーダー 高山 姫瑠（理工学部2年）

環境教育チームは、子どもたちが環境に親しみ、環境問題への関心を高めることを目的に活動しています。2024年9月には、つつみ幼稚園の子どもたちを対象に、「3R（リデュース・リユース・リサイクル）」をテーマとした講演を実施しました。〇×クイズや体を動かすゲームなどを取り入れ、子どもたちが楽しみながら自然環境への学びや興味を持つきっかけとなるよう工夫して準備を行いました。当日は、想像以上に子どもたちが一生懸命に活動へ取り組む姿が見られたことが大変印象的でした。



つつみ幼稚園での環境教育

同年12月には、岩手大学の学生を対象に「キャンドルナイト」を開催しました。この企画を通じて、日頃何気なく使っている電気の大切さやありがたみを感じる機会を提供できたと考えています。

今後も、子どもたちが少しでも環境に対して興味や関心を持てるような企画を考案・提供し、活動の幅を一層広げていきたいと考えています。また、企画を立案するにあたっては、対象となる子どもたちや、その子どもたちを取り巻く自然環境への理解を深め、寄り添った内容とすることを大切にしながら取り組んでいきます。

グリーンキャンパスチーム

グリーンキャンパスチームリーダー 熊谷 恭輔（農学部3年）

毎年学内緑化活動の一環として、図書館西側の壁に西洋アサガオを使った「グリーンカーテン作り」に取り組んでいます。西洋アサガオはツルがよく伸び、繁茂しやすく、日差しを効果的に遮るため、グリーンカーテンに最適です。この活動の主な目的は、夏場の室温低下による節電とCO₂排出量の削減です。図書館という多くの人が利用する場所に設置することで、環境問題への意識向上や環境配慮活動の周知を図っています。また、植物には騒音を軽減する効果があり、緑豊かな空間はストレス軽減にも寄与し、学生の学習環境向上に貢献します。

栽培・管理は環境マネジメント学生委員会が中心となり、学生が主体的に参加することで、植物の成長を学び、自然や環境への関心を深めています。図書館での活動は、他の学生や地域住民に環境問題の重要性を伝え、環境教育の一環としても機能します。この取り組みは、省エネルギーや快適な空間づくりを通じて、キャンパス全体の環境負荷低減を目指します。

今後も緑豊かで環境に優しいキャンパスづくりに取り組み、学生や地域に環境意識を根付かせ、持続可能な社会の実現に貢献します。

廃棄物チーム

廃棄物チームリーダー 関 哲志（理工学部3年）

廃棄物チームでは、岩手大学内外の廃棄物にまつわる活動を行っています。主な活動としては、毎月行っている岩手大学のゴミステーションをまわり、燃えるゴミやプラスチック、ペットボトルなどの廃物がどれほど分別されているかを調査するゴミ分別調査や、委員会の委員の交流を兼ねた二ヶ月～三ヶ月の一度のゴミ拾いなどがあります。ゴミ分別調査の意義としては、学内のゴミ分別調査の結果を岩手大学生や大学の教職員に向けて、配信することで大学生のゴミ分別に対する意識を向上させる目的で活動しています。毎月のゴミ分別調査の結果から、特にゴミ分別率が芳しくないものを分別するように、強化的に周知することで、毎月少しずつ分別率を上げていけるようにチームの委員一同取り組んでいます。

また、ゴミ拾いでは大学内外に問わず、岩手大学の近辺や大学内をゴミ拾いしています。委員の中には、委員会に入ったきっかけにゴミ拾いだった委員もいるため、それを中心として活動しています。こうしたゴミ拾いを通して、委員の廃棄物に対する意識の向上や身の回りの環境に対する理解を促す、重要な活動になっています。

廃棄物チームは、委員や岩手大学生、教職員の廃棄物の意識を高めるだけでなく、岩手大学のゴミ分別の環境を向上させることを目的に活動していきます。



学生サークルの環境活動

岩手大学ツキノワグマ研究会

私たちツキノワグマ研究会は、盛岡市の猪去地区を中心にクマの調査、被害対策活動、そして普及啓発活動を行っているサークルです。

ツキノワグマの生態調査

生態を知るための踏査・フン分析・餌資源調査という3つの活動を行っています。

踏査とは、山の中で木についた爪痕やフンなどのツキノワグマの痕跡を歩いて探すことです。週末に盛岡市の猪去地区まで自転車で行き、五感を駆使して森を調査します。

フン分析とは、踏査で採集したクマのフンを分析することです。これによりクマがどの時期に何を食べたのかが分かります。これはクマの消化能力が低く、食べたものがそのまま出てくるためです。ちなみにクマのフンはいい香りがします。

クマの餌資源の豊凶をシードトラップ法で調べる餌資源調査です。シードトラップ法とは、かご状のトラップをクマが秋に実をよく利用する木の下に設置して、一定期間後回収し、種子の数と重さを記録する方法です。餌資源を調べ、餌資源の豊凶によってクマの行動がどのように変化するかをモニタリングします。

被害対策活動

クマは猪去のリンゴを食べに、里まで下りてきてしまいます。そのため私たちはリンゴ農園の被害を最小

限に抑えるべく、官民学連携して猪去地区の農家さんを主体とした被害対策活動を行っています。被害対策活動には、3つの活動があります。

1つ目は広範な電気柵の設置です。クマの侵入を防ぐために、山沿いの果樹園一帯に電気柵を設置しています。電気柵は電線を張るだけのものなので物理的に強くはありませんが、感電により二度と触れたくない心理的な防御効果を発揮します。

2つ目は、草が成長する夏に3回農家さんと協働で行う草刈りです。草刈りには、草が電気柵に触れ漏電するのを防ぎ、人と野生動物の生活圏の間に空間を作って緩衝帯とする目的があります。

3つ目は、センサーカメラの設置です。クマの侵入経路を調べるためにセンサーカメラを設置しています。また調査結果やセンサーカメラの状況などを猪去地区の方に共有もしています。

クマに関する情報の普及啓発活動

普及啓発活動です。日本有数のクマ生息地である岩手県で、多くの人にクマについて知ってもらうため、クマの毛皮や骨格、クマの生態や人身被害についてのポスターを用いて解説を行っています。

公式Xアカウント：[@iwate_kuma](https://twitter.com/iwate_kuma)

公式はてなblog：[Ursus23 \(id: IwateUniv_kuma\)](https://hateblo.jp/ursus23)



理工学部附属ものづくりエンジニアリングファクトリー
起業家支援室 渡邊 佐藤

学内カンパニー活動は、2009年度から5年間、文部科学省の教育改善プログラムとして予算措置され、2014年度以降は岩手大学の自主運営事業として継続されている取り組みです。医学部では附属病院、農学部では附属農場、教育学部では附属学校があり、学生が学んだ知識を実践する場が用意されています。しかし、従来の理工学部には、ものづくりを学んでも、それを総合的に実践する場がありませんでした。そこで、教職員や大学内外の協力者の支援を受けながら、学生が主体となって起業した事業を、仮想カンパニー（バーチャルカンパニー）の形で実現する「学内カンパニー」活動が始まりました。理工学部からスタートしたこの活動は、現在では全学的な取り組みへと発展しています。

2024年度は9のカンパニーに91名の学生が参加して活動しました。ここでは、環境活動に繋がる活動を行った「岩手大学クラフトビール部」を紹介します。

学内カンパニー『岩手大学クラフトビール部』

共同代表：佐藤 稜（農学部食料生産環境学科4年）

：山端 脩暉（農学部食料生産環境学科3年）

※カンパニー名、代表者の所属は2024年のものです

●活動を始めたきっかけ

岩手県ではビール産業が盛んですが、ビールの原料における国内自給率は約8%にとどまり、その多くを輸入に頼っています。一方で、農地の過少利用も大きな課題となっており、その進行により、地域からの所得流出やCO₂排出の増加といった問題が生じています。そこで、農地の新たな活用策として、ビール用麦の普及に取り組んでいます。

●活動概要

本プロジェクトは2021年から実施しており、現在は県内のブルワリーや農業法人と連携し、岩手県内でのビール用麦の普及に取り組んでいます。さらに、学外の研究機関や自治体とも連携を進め、「ビール産地形成」をテーマに、複数の業種やセクターを超えた「共創」を実践しています。

連携の中では、醸造時に排出されるビール粕をビール用大麦の生産における堆肥として活用するなど、醸造と生産のあいだで循環型の仕組みを構築しています。

また、県産ビールの普及を通じて、消費者に対して地域や農業の課題への関心を高めることにも貢献しています。

今後の気候変動や円安による供給リスクも見据え、持続的かつ内発的に発展する地域づくりを目指し、ビール用麦の県産化に取り組んでいます。



地域資源を活用したクラフトビール生産



農地保全を目的としたビール用麦の栽培普及活動

7 環境に関する規制について

岩手大学に関わる環境法規制（一部）



『岩手大学環境マネジメントマニュアル』に基づき、岩手大学で履行すべき環境関連法規制の改正状況を毎年5月と11月に確認し、岩手大学環境マネジメントシステム（EMS）内部監査実施時（毎年6月下旬～7月上旬）に、環境関連法規制の遵守状況を評価しています。

関連法規制名とその遵守の要点	評価対象部署	実行状況
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 「外観目視による検査などの実施」	EMS内部監査対象ユニット	遵守確認 (2025年度 EMS内部監査時 遵守確認)
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律 「環境物品などの選択」		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 「ゴミ分別の適正な実施」	理工学部・法人運営部・ 学務部・附属小学校	
盛岡市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例 「産業廃棄物処分状況の実地確認」	事務局（法人運営部経理課）・ 環境マネジメント推進室	
ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の適正な処理の推進 に関する特別措置法「PCB廃棄物の保管・処理」	法人運営部経理課	
放射性同位元素等の規制に関する法律 「測定・記録・帳簿の作成・保管など」	RI総合実験センター	
毒物及び劇物取締法 「容器・被包・貯蔵（陳列）場所での表示」 「廃棄方法基準に従った廃棄の実施」	人文社会科学部・理工学部・ 附属小学校	是正処置中

環境リスクマネジメント



2024年度における岩手大学の環境リスク発現事象とその後の対応の概要については下記の通りです。

事象	対応内容と結果
構内排水水質分析結果 (採取年月日2024年7月8日)「BOD」 と「ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動 植物油脂類）」が教育学部系統排水で下水 排除基準値を上回った。 BOD：810mg/L (基準値：600mg/L以下) ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植 物油脂類）：110mg/L (基準値：30mg/L以下)	教育学部、学務部、人文社会科学部、研究・地域連携部、理 工学部へ「要改善点に係る記録書」を8月2日に送付し、原因 等の報告を依頼。原因の特定には至らず、8月5～20日、上記 の部局・ユニット構成員に注意喚起の連絡を実施したことが報 告された。 上記の対応について、第155回環境マネジメント推進室会議 (2024年8月27日)「環境提案等記録簿（案）」で報告。 第156回環境マネジメント推進室会議（2024年11月12日） において、「構内排水水質分析結果（採取年月日2024年9月 17日）」で再度の基準値超えがなかったことが報告された。

目的・目標

- 毒物・劇物の管理（自己点検及び管理状況調査の実施）（2024年度）
- ・ 目的 毒物と劇物の管理・取扱状況に関して、使用者自身による自己点検及び安全衛生管理室による調査を行うことで、適切な管理への意識を高める。
- ・ 目標 毒物と劇物の使用責任者が、毒物等取扱施設自己点検表を用いて自己点検を行う。
毒物等の管理・取扱状況を確認する立ち入り調査を実施する。

取組状況

- 取組の手順
 - ・ 毒物等取扱施設自己点検について
岩手大学毒物及び劇物管理規則に従い、126名の毒物等使用責任者が「毒物等取扱施設自己点検表」による自己点検を実施した。
すべての使用責任者から自己点検表の提出があり、問題ありと報告した使用責任者はいなかった。
 - ・ 毒物等管理状況調査について
購入後15年以上経過した毒物30本を対象に立ち入り調査を行い、保有している毒物等の管理・取扱状況を確認した。

成果・資料他

- 2024年度 毒物等取扱施設自己点検結果一覧

	対象者数	提出者数	未提出者数	全て問題なし と報告した者	問題ありと 報告した者
人文社会科学部	2	2	0	2	0
教育学部（附属学校を含む）	10	10	0	10	0
理工学部	51	51	0	51	0
農学部（附属施設含む）	58	58	0	58	0
研究支援・産学連携センター	3	3	0	3	0
三陸水産研究センター	2	2	0	2	0
合計	126	126	0	126	0

- 2024年度 毒物等管理状況調査結果

購入後15年以上経過した毒物（30本）の調査結果 購入後15年以上経過した毒物（30本）を保有する使用責任者（10名）の調査結果

調査対象毒物	現品確認	調査 対象者	調査結果		調査項目
30本	全て現品を確認した		問題なし	問題あり	・ 対象毒物の現品確認 ・ 毒劇物専用保管庫の状況確認 （施錠、表示、一般試薬との混在）
		10名	10名	0名	

- 最終結果

- 1) 毒物等取扱施設自己点検
 - ・ すべての毒物等使用責任者が、「毒物等取扱施設自己点検表」による自己点検を実施し、結果を毒物等管理委員会に報告した。
- 2) 毒物等管理状況調査
 - ・ 購入後15年以上経過した毒物30本を対象に現品を確認し、保有者（教員10名）の保管状況が適切であることを確認した。
 - ・ 不要毒物の処分推進として、対象毒物30本のうち20本を廃棄した。

8 構内事業者の取組

岩手大学生協同組合の環境への取組



組合員が環境について知り、考え、自ら選択して環境の取組を行える場面を作り出していきます。

●「学食BENTO弁当」の容器と「樹恩割り箸」の回収を実施しています。

岩手大学生協ではオリジナルの弁当、「学食BENTO」を販売しており、容器として「はがせるトレイP & Pリ・リパック」を使用しています。使用後に、直接食材が触れていたフィルムを剥がすことで、容器を洗浄せずにリサイクルに回すことが出来るため、洗浄排水及び廃棄物排出量の削減ができます。

現在、岩手大学構内各所に「学食BENTO弁当容器回収BOX」を設置し、BOXに溜まった容器を定期的に生協学生委員会が回収してメーカーに送ることで、再生原料化されて新しい容器に生まれ変わります。

2023年度からは回収BOXを新しくし、BOXが溢れそうになったときは2次元コードから報告してもらえるようにすることで、BOXが溢れることを防げるようになりました。

学生委員会のSNSを活発に活用し、これらの取り組みの周知活動も始めました。2025年度は回収率を掲示したボードを食堂に設置します。

●グラスファイバー箸と国内間伐材割り箸を使用しています。

食堂で使用するお箸には再利用できるグラスファイバーのお箸と国内間伐材の割り箸を、購買店舗では配布するお箸を全て国内間伐材の割り箸にしています。



割り箸呼びかけポスター

国内間伐材の割り箸はNPO法人「樹恩ネットワーク」から南会津の工場のものを取り寄せています。2024年9月の岩手大学の環境の講義で福島大学の先生からのご指導をいただき、2025年から割り箸の回収を各食堂で再開します。回収された割り箸は南会津に送り返され、ペレットへと生まれ変わることで、廃棄物排出量の削減とリサイクルに貢献できます。また割り箸の回収範囲を大学構内各所に拡大できるよう検討します。

※NPO法人「樹恩ネットワーク」の詳細は下記ホー

ムページにてご確認ください。

[\[https://juon.or.jp/activity/activity_53.html\]](https://juon.or.jp/activity/activity_53.html)

●食堂の取り組み

食堂・購買では売れ残りなどで食品残渣が排出されています。

食堂では、提供前の廃棄を減らすために、昼や夜のピーク時以降は少バッチ（1回の調理で作る人数分を減らす）で調理するとともに、学事を把握して客数や出食数を計画し、食材の廃棄を減らすようにしています。また、調理工程での廃棄を減らすために、前加工は専用工場で行っています。年間の廃棄量は約4.0トンとなっています。また水質汚濁の防止と地産地消・フード・マイレージの削減のため、米は奥州市の「金色の風」無洗米を使用しています（2023年10月より「ひとめぼれ」から変更）

購買店舗でも学事を把握して客数や販売個数を予測し、売れ残りの廃棄を減らす工夫のほか機会損失による販売減少を防ぐ工夫をしています。機会損失（買おうと思ったときに商品がない状態）を減らすことで、「商品がどうせないから生協に行かない」という来店客減少による供給数減少、商品廃棄を防ぐようにしています。

●新入生向け中古家電品の販売

2010年12月より、市内の中古品販売業者と提携し、卒業生から家電品の引き取りを行い、新入生向けに販売をしています。生協では卒業する4年生向けに家電品の引取り案内を宣



中古家電品リサイクル販売

伝し、申込者は直接中古品販売業者に連絡してもらいます。また、引き取られた家電品は生協の新入生サポートセンターで新入生に販売します。

この取組をはじめめるまでは、生協管理アパートのゴミ置き場に家電製品があふれる状況だったのが、取組を初めて以降は殆ど無くなりました。

2016年度より不動産部店頭で提携業者の買い取りチラシを配布し、卒業予定年の組合員には、6月に開催している卒業生向け「はばたけフェア」のブースや12月に送付する生協脱退の案内と一緒にリーフレットを配布して告知をしています。新入生の利用額も年々増加しています。

9 環境マネジメントシステムの見直し

環境マネジメントシステム見直し記録



代表者による全体の評価と見直し

令和7年（2025年）1月15日

岩手大学環境マネジメントシステム最高環境責任者

岩手大学長 小川 智

岩手大学の環境マネジメントシステムの全般についての評価と見直しについては、10年以上の取り組みの蓄積により、つつがなく実施できている内部監査等システムを、引き続き維持するとともに、以下の点について見直すことが必要と判断する。

2024年度「環境マネジメントシステム見直しのための情報」では、

- ① 内部監査自体はつつがなく実施できているが、活動計画が形骸化・マンネリ化している印象がある。毎年の活動計画の精査・熟考が必要である。
- ② 環境マネジメント学生委員会の活動について、学生たちの自主性を尊重しつつも、他大学と比べての本学学生の意識や意欲の高さ、企業・行政とうまく連携できる能力があるか、などについて、環境マネジメント推進室等による適切な補佐・助言の必要がある。
- ③ 環境報告書を、環境への取り組みを大学に付加価値に結び付けるものとして、他大学のものを分析・参照しつつ、改善する必要がある。また監事より指摘された、環境省「自然共生サイト」への登録など、大学の付加価値を高める取り組みについて、情報を収集する必要がある。
- ④ ネイチャー・ポジティブ経営、自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）の枠組みでの情報開示、炭素会計など、積極的で新たな取り組みが社会的に求められるようになっている。教職員が政策や社会的動向について学習を研鑽することが必要である。

の4点の指摘がおこなわれた。

- ①については、形骸化している活動を洗い出して新たな活動へ変更するとともに、活動成果の見えるかの工夫など、多忙でリソースが限られている現状においても、新たな取り組みに意欲的になることのできる仕組みづくりを指示する。
- ②については、歴史のある学生委員会の活動を高い水準で次の時代へと引き継ぐため、適切な助言、見直しを関係各所と開始するよう、環境マネジメント推進室に指示する。
- ③については、環境報告書の改善を鋭意実施するとともに、「自然共生サイト」への登録など、本学の付加価値を高める取り組みについても、積極的に情報収集と企画提案をおこなうよう指示する。
- ④については、環境マネジメント推進室が主導して、環境セミナーをはじめとする学習研鑽の機会をもうけ、高まる社会からの要求に応え得る、学習理解と推進の機運醸成をはかるよう指示する。

以上。

ステークホルダーによる環境報告書の評価



岩手大学人文社会科学部環境科学課程（現：地域政策課程）卒業生

岩手大学環境マネジメント学生委員会OG

岩手県環境生活部環境生活企画室 阿部 円香

■ 自己紹介

岩手大学卒業生の阿部と申します。在学中は環境マネジメント学生委員会（EMSC）に所属していました。受講した科目で地域企業の環境報告書執筆のお手伝いをしたことが記憶に残っております。また、大学3年次には、国際研修プログラムに参加し、アイスランドで再生可能エネルギー自給率100%の暮らしを体験しました。

現在は、岩手県庁で地球温暖化対策・脱炭素を推進する部署に所属しています。2050年カーボンニュートラルの目標達成に向け、まさに持続可能な社会を実現しているアイスランドでの経験も思い起こしながら、日々業務を行っています。



温暖化防止いわて県民会議 若者WGミーティングの様子

■ 環境報告書の評価と今後期待する点

まず、全体を通してグラフや写真が多く、環境目標及び活動計画の達成状況がイラストで示されており、一見して分かりやすい報告書であると感じました。学内外の事例を広く紹介していることも、読み手への配慮が感じられました。

また、昨年度の「環境報告書2024」第三者意見を受け、今年度新たに「環境関連分野に取り組む卒業生の活躍紹介」が加わっています。学外からの意見を踏まえ、PDCAサイクルに則って即改善に移していく誠実な姿勢は、環境マネジメントを運用していく上で素晴らしいものだと思っております。

その上で、数値的な目標を設けている項目、例えば温室効果ガス削減量であれば、2030年度約50%削減目標に対して、現状何%削減されているのか、達成率とその評価についても示していただけると、より効果

的なPDCAサイクルの運用となるのではないかと考えます。進捗率の把握を行うことで、目標達成までのロードマップが組み立てやすくなり、未達成の場合の改善案についても、具体的な手法を検討できるようになるのではないのでしょうか。

加えて、p.32に「活動計画の形骸化・マンネリ化」との指摘がありますが、約20年前から先駆的に環境保全に取り組んできた貴学ゆえの悩ましい課題であると感じました。現在、岩手県では、県内大学の横軸連携組織「いわてカーボンフリー・アクション（ICFA）」において、県内企業・団体と連携しながら、岩手の脱炭素化に向けた広報活動を行っています。この活動には貴学のEMSCの学生も参画しています。このような学生主体の新たな取組が、貴学の課題解決に一石を投じ、また本報告書をはじめ様々な媒体で広く学内外に発信されることを期待しています。



ICFAポスター

■ 終わりに

地球温暖化による気候変動の影響は、既に目に見える形で我々の暮らしを脅かし始めています。行政だけが旗を振っていても解決には至らず、一人ひとりの行動が何よりも大切です。貴学が輩出した人材が、社会で頼られ、尊敬され、予測不可能な社会を牽引する希望となりますよう、そして今後も貴学が環境マネジメントの先駆者として更なるご発展を遂げますよう、心からお祈り申し上げます。

『環境報告書2024』 第三者意見への対応

岩手大学『環境報告書2024』「ステークホルダーによる環境報告書の評価」として、岩手大学卒業生であり、民間エネルギー企業で環境業務に従事されている五月女幸様に第三者意見を執筆いただきました。

岩手大学在学中には、人文社会科学部環境科学課程（現：地域政策課程）で学びながら、2008年10月から17年間、岩手大学の環境マネジメントシステム運営に学生の立場から参画している「岩手大学環境マネジメント学生委員会」の発足メンバー・副委員長・第2代委員長として活躍されました。第三者意見執筆時には、岩手大学卒業後に就職されたエネルギー関連企業で、在学中の学びも生かし、様々な業務経験を積まれた後、現在は環境法令・温暖化政策対応、環境教育、次世代育成などの環境業務に従事されています。

岩手大学『環境報告書2024』第三者意見で、五月女様は

- ・環境報告書全体がSDGs（持続可能な開発目標）と紐付けられ、社会課題の解決に貢献していることが分かりやすい構成になっていること
- ・多様なステークホルダーへの配慮を感じられるような配色・文字の大きさ・要点がコンパクトにまとめられた記事になっていること
- ・環境目標や活動計画の進捗状況表示のユニークさ
- ・学外からの意見を積極的に反映し取組に活かす姿勢

などを高く評価されました。

今後期待する点として、地域を巻き込みリーダーシップを発揮できる担い手の育成・輩出を挙げられ、五月女様のように環境関連分野に取り組む卒業生達の活躍を『岩手大学環境報告書』での紹介について提案いただきました。

前者については、「地域課題解決プログラム」（23ページ）や「学生の環境活動」（25～28ページ）で紹介するとともに、昨年度2024年度から岩手大学地域協創教育センターで全学部生を対象とした共修プログラム「イーハトーヴ協創コース」が始められていることから特に環境分野の取組内容について今後の『岩手大学環境報告書』でも取りあげることを検討します。

後者については、ご提案いただいた五月女様を環境関連業務に取り組む卒業生の1人として紹介しました（24ページ参照）。岩手大学在学中における課内外活動の学び・体験を卒業後の進路先における環境関連業務でも活かされていることなどについて紹介できました。



「エコプロ2024」EMSCブース訪問の様子

11 2025年度活動計画

2025年度岩手大学環境目標及び活動計画



環境方針等	I. キャンパス環境の改善
環境目標	分かり易い環境マネジメントシステムの運用を図る。
活動計画	1. 新体制での内部監査を実施する。
環境目標	上田キャンパス内に生物多様性の保存地域を設定する。
活動計画	2. 自然共生サイトへの登録を検討する。
環境方針等	II. エネルギーの使用
EA21要求事項	二酸化炭素排出量の削減
環境目標	公用車のガソリン・軽油等の利用の削減を図る。
活動計画	1. ユニットで使用している公用車について、電動車への転換可否を検討する。
環境目標	2030年のCO₂排出量を2013年度比で50%削減目標を構成員全体への周知を図る。
活動計画	1. 実行計画 ¹⁾ を周知する。
1) 岩手大学がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の削減等のため実行すべき措置について定める計画	
環境目標	LED設置率を2024年度から2ポイント上げる。
活動計画	1. LEDへの更新を図る。
環境目標	PPA方式による太陽光発電施設の設置について検討する。
活動計画	1. PPA方式による太陽光発電施設設置のための基本情報を収集する。
環境目標	調達電力の再生可能エネルギー割合を検討する。
活動計画	1. 調達電力に占める再エネ電力比率の設定に向けた検討を行う。
環境目標	環境取組チェックリストを積極的に活用する。
活動計画	1. 環境取組チェックリストの取り組み内容を精査する。
環境方針等	III. グリーン購入
環境目標	グリーン購入実績のデータをもとに、コピー用紙、コピー機使用量及び印刷外注の軽減を図る。
活動計画	1. 各部局のコピー用紙、コピー機の使用量及び印刷外注の件数や印刷数量等の現状を把握し、DX化を踏まえた軽減策を検討する。
環境方針等	IV. 廃棄物等の排出
EA21要求事項	廃棄物排出量の削減
環境目標	リサイクルの推進に向けた取組を行う。
活動計画	1. 知られてないリサイクルの技法などをSNSを通じて発信する
環境方針等	V. 環境教育 環境人材教育
EA21要求事項	環境に関する教育（環境人材の育成）
環境目標	構成員に対し環境課題に関する情報発信を行う。
活動計画	1. 環境セミナーを開催する。
環境目標	効果的な環境人材育成プログラムの再構築を図る。
活動計画	1. 地域協創教育センター「イーハトーヴ協創コース」環境人材育成モデルにおける関連選択科目・学外実習を開講、実施する。
環境目標	学部生への効果的な環境教育を実施する。
活動計画	1. 学部生に地域協創教育センター「イーハトーヴ協創コース」環境人材育成モデルの周知を行う。
環境目標	附属幼稚園では、花や野菜の栽培等を通して、植物が育つ環境について関心をもつ活動を行う。
活動計画	1. 花の栽培や野菜作りで水やりや草取りなどの世話をする。それらを通して、自然の美しさ、豊かさ、不思議さなどに気づいたり、成長する様子に関心をもったり、命の大切さを感じたり、収穫の喜びを味わったりする。
環境目標	附属小学校では、「総合的な学習の時間」等を活用し、自然観察や地球温暖化の学習など環境について学ぶ場を創る。また、委員会やたてわり活動を通して、環境に配慮した活動を行う。
活動計画	1. 総合的な学習の時間や各教科の学習において、環境について自分ができることを考え表現する活動を行う。 2. 委員会等の活動として、冬季の除雪作業や校庭の石拾いを行う。

環境方針等	V. 環境教育 環境人材教育
EA21要求事項	環境に関する教育（環境人材の育成）
環境目標	附属中学校では、環境を守りはぐくむ心と感受性を育て、環境美化活動、エネルギーの節約等に配慮した生活・行動を実践できるよう指導する。
活動計画	1. 生徒会活動による校地及びその周辺の清掃・環境美化活動を行う。 2. ボランティア委員会による附属幼稚園等の清掃・環境美化活動を行う。
環境目標	附属特別支援学校では、作業学習等で使用する原材料のリサイクル化を推し進めるとともに、委員会活動や生徒会活動における資源回収を通して環境活動を実施する。
活動計画	1. 空き缶、古新聞等の「資源回収」について、引き続き全校に呼びかけ、中学部の委員会活動で取り組む。 2. 高等部環境委員会では、継続してペットボトルキャップの回収及び洗浄を行う。併せて、回収後のキャップを回収業者へ持ち込む活動に取り組む。
環境目標	EMS学生委員会では環境活動を積極的に実施する。
活動計画	1. これまでの環境活動を精査し、PDCAサイクルに基づき継続する活動についての改善を図る。 2. 教職員が学生委員会の活動に積極的に参画し活動内容を共有する。
環境方針等	VI. 環境関連研究
EA21要求事項	研究及び地域や社会への還元
環境目標	環境関連研究の見える化を図る。
活動計画	1. 段階的情報発信整備に向け、発信情報の受け手を想定し、試験的に環境関連研究の情報を発信し効果を検証する。
環境目標	各学部・研究科の特色を活かした環境関連研究を推進する。
活動計画	1. 人文社会科学部としての総合科学的な環境関連研究を推進する。 2. 教員養成学部として、学校現場などの教育実践への活用や地域ニーズに応える環境関連研究を推進する。 3. ソフトパス理工学の理念に基づき、ソフトパス理工学総合研究センター及び学部・研究科における持続可能な社会づくりに向けた理工学分野の環境関連研究を推進する。 4. 農学部と獣医学部は農林漁業並びに畜産業の発展に資す環境関連研究を推進する。
環境方針等	VII. 構内事業者の取組
環境目標	放送大学岩手学習センターにおいて環境に配慮した取組を実施する。
活動計画	1. 放送大学学生に環境保全活動の啓発を推進する。
環境目標	プラスチックごみの削減に努める。
活動計画	1. 学食BENTOリ・リパック容器の研究室、ゼミでの集団回収を実施する
環境目標	食品残渣のリサイクルを検討する。
活動計画	1. 調理加工済みの食品残渣リサイクルに向けた方法を引き続き検討する。
環境方針等	VIII. 地域社会に対する取組
EA21要求事項	社会貢献
環境目標	持続可能な漁業に向けた取組を行う。
活動計画	1. 地域でのイベント等で機会があれば、本キャンパスでの研究や調査などで得られた知見を活かし、講演や発表、展示等を行う。
環境目標	環境活動結果の効果的な情報発信
活動計画	1. 環境報告書の情報発信ツールとしての利用方法を検討する。
環境目標	環境報告書の信頼性の向上を図る。
活動計画	1. 環境報告書の自己評価を実施する。
環境方針等	IX. 法規制順守
環境目標	法規制に関わる製品の購入・使用・廃棄時には法規制遵守評価シートによる確認を行う。
活動計画	1. ボイラー、フロン類使用製品の購入・使用・廃棄時には法規制遵守評価シートによる確認を行う。

環境報告ガイドラインとの対照表

環境報告ガイドライン（2012）における項目	本報告書における対象項目	掲載頁
環境報告の基本的事項		
1. 報告にあたっての基本的要件		
（1）報告にあたっての基本的要件	対象組織、対象期間	表紙裏面
（2）対象範囲の捕捉率と対象期間の差異		
（3）報告方針	環境報告等に関する基準又はガイドライン等	表紙裏面
（4）公表媒体の方針等	奥付	裏表紙
2. 経営責任者の緒言	学長メッセージ	1
3. 環境報告の概要	環境目標及び活動計画の達成状況	2
4. マテリアルバランス	マテリアルバランス	11
「環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況」を表す情報・指標		
1. 環境配慮の取組方針、ビジョン及び事業戦略等		
（1）環境配慮の取組方針		
（2）重要な課題・ビジョン及び事業戦略等	環境マネジメントシステムの見直し記録、2025年度岩手大学環境目標及び活動計画	32、35～36
2. 組織体制及びガバナンスの状況	岩手大学に関わる環境法規制	29
3. ステークホルダーへの対応状況		
（1）ステークホルダーへの対応	第三者意見への対応	34
（2）環境に関する社会貢献活動等	附属学校の環境教育活動	19～20
	地域におけるコミュニケーション	21～24
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況		
（1）バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	学外事業者への環境配慮依頼	10
（2）グリーン購入・調達	グリーン購入の状況	7
（3）環境負荷低減に資する製品・サービス等	環境教育・研究、学生・学生の環境活動、構内事業者の取組	14～18、25～28、31
（4）環境関連の新技术・研究開発		
（5）環境に配慮した輸送		
（6）環境に配慮した資源・不動産開発/投資等		
（7）環境に配慮した廃棄物処理/リサイクル	総物質投入量、廃棄物総排出量	6、8
	環境会計に関する情報	12
「事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況」を表す情報・指標		
1. 資源・エネルギーの投入状況		
（1）総エネルギー投入量及びその低減対策	総エネルギー投入量	5
（2）総物質投入量及びその低減対策	総物質投入量	6
（3）水資源投入量及びその低減対策	水資源投入量	6
2. 資源等の循環的利用状況（事業エリア内）	総物質投入量	6
3. 生産物・環境負荷の算出・排出等の状況		
（1）総製品生産量又は総商品販売量等		
（2）温室効果ガスの排出量及びその低減対策	温室効果ガスの排出量	6
（3）総排出量及びその低減対策	総排水量	8
（4）大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策		
（5）化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	化学物質排出量及び管理状況	7
	毒物・劇物の管理	30
（6）廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	廃棄物総排出量	8
（7）有害物質等の漏出量及びその低減対策	化学物質排出量及び管理状況	7
	有害物質の漏出	9
生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況		
1. 「環境配慮経営の経済・社会的側面に関する」を表す情報・指標		
（1）事業者における経済的側面に関する状況	環境会計に関する情報	12
（2）社会における経済的側面の状況	環境保全効果・環境保全対策に伴う経済効果	13
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況		
その他掲載事項等		
1. 後発事象等		
2. 環境情報の第三者審査等	第三者意見、第三者意見への対応	33、34

編集後記

2024年は、ESG経営を取り巻く社会環境が大きく揺れた年でした。米国大統領トランプの再選や欧州における極右政党の台頭により、企業の社会的価値貢献に関する非財務情報開示の動きが後退。後退の主要な対象となったのは多様な人材の活用、いわゆるDEIでしたが、環境に関しても、厳しい規制が先進国内の製造業を苦しめているとの不満が噴出し、トランプによるパリ協定離脱の大統領令、ドイツにおける原発再稼働をめぐる議論など、2000年代以降の積み重ねを、なし崩しにしようとする動きがみられました。

大学も経営体として厳しい運営を迫られている中、このような動きがあると、つい規制緩和や非開示の方に流されてしまいがちです。しかし、理想と真理を明らかにし次世代に伝えていく教育研究機関として、大学はどのように厳しくとも、社会的価値貢献を放棄して経営されるべきではないと思います。そして岩手大学には植物園や演習林など、豊かな緑がありますが、近年のネイチャー・ポジティブ、すなわち自然をただ保全するのではなくそこにおける生物多様性をより豊かにしていこう、という流れは、本学の社会的価値貢献がより評価される方向に動いているとも感じます。非財務情報開示を後ろ向きに捉えず、本学の社会的価値を広報する機会として積極的に取り組んでいく必要があります。

この環境報告書は、したがって大学のESG経営における非財務情報開示として、本学の環境面における社会的価値貢献を、わかりやすく効果的に示すものでなければなりません。今年度は、従来よりもイラストや写真を多く用い、レイアウトを工夫するなど、読みやすく親しみやすい紙面づくりに努めました。今後必要なのは、環境面における社会的価値貢献を通じて、10年後あるいは20年後に本学がどのような大学となろうとしているのか、主体的で積極的な価値創造ストーリーが環境報告書から読み取れるようにする、という改善だと思っています。環境に対する取り組みが、規制や法的義務への対応という受動的なものとして認識されている限り、環境マネジメントの重要なプロセスである「ピンチとチャンスの明確化」は十分に達成されているとは言えません。環境報告書に関わる多数の執筆者が、価値創造ストーリーをあまねく共有し、それぞれの担当部分においてストーリーを意識した報告・記載をしていただけるようにすることを、来年度に向けての課題としたいと思っています。



副学長
(ダイバーシティ・環境マネジメント担当)
環境マネジメント推進室長
海妻 径子

この報告書は、ホームページにて公表しています。

岩手大学環境マネジメント推進室HP「資料集」

<https://ems.iwate-u.ac.jp/data/>

発行日 2025年9月

次回の発行は、2025年4月～2026年3月を対象期間として
2026年9月ごろの発行を予定しています。

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番8号

岩手大学環境マネジメント推進室

Tel 019-621-6911・6912

Fax 019-621-6999

E-mail ems@iwate-u.ac.jp

環境報告書 2025

